

第 1 部

阪神・淡路大震災の概要

第 1 章

震災前の宝塚市の状況

1 位置と面積

宝塚市は阪神都市圏の中央背後部に位置し、昭和29年の市制施行以降、合併等により市域は、面積101.89km²、海拔最高571m、最低19.1m、広ぼう東西12.8km、南北21.1kmとなっている。

市域中央南寄りを北摂連山長尾山系が東西に走り南部の市街地と北部の丘陵山村地域に分断している。

南部は、北摂連山と六甲連山の緑に囲まれ、その中央を武庫川が流れ、行政区域的には、西宮・伊丹・川西の各市に接している。

また、北部は、神戸・三田の両市と猪名川町に接し海拔300～500mの丘陵山地と平坦地の村落部分で構成される。

宝塚市の位置



2 人口

平成7年1月1日現在、市域の人口は、206,641人73,120世帯で、人口密度は、1km²当たり2,028人と年々高くなってきているが、古い市街地では人口の減少や高齢化、建築物の老朽化が進んでいる。

宝塚市の人口推移

年	人口	世帯数	人口密度	備考
昭和61	197,493	64,134	1,938	推計人口
昭和62	199,761	65,235	1,961	〃
昭和63	201,318	66,130	1,976	〃
平成元	201,727	66,838	1,980	〃
平成2	201,862	67,922	1,981	第15回国勢調査
平成3	203,536	69,432	1,998	推計人口
平成4	204,552	70,477	2,008	〃
平成5	205,207	71,558	2,014	〃
平成6	206,140	72,798	2,023	〃
平成7	206,641	73,120	2,028	〃

※ 各年10月1日現在、ただし平成7年は1月1日現在

※ 人口密度は1km²あたり

3 地形、地盤の特性

南北に長い市域は、北部の北摂山地と、西南部の六甲山地の2つの山地と、武庫川を中心とした南部の武庫平野に地形が区分される。

(1) 北摂山系

北摂山地は、古生層や流紋岩類で構成される山地であり、十万辻断層、中山断層、南限を有馬一高槻構造線が走っている。

北摂山地は、市域の約八割を占め、北の西谷地域と南の長尾山地にわけることができる。

ア 西谷地域

西谷地域は、市域の北部に位置し、その北端の香合新田の地域最高峰485.3mの山と周辺の450m前後の山および南の459.4mの古宝山のほかに、350m前後の似通った高さの山々が続く武庫川水系、猪名川水系2つの水系からなる山地である。



千苅水源池

これらの山々に囲まれた広い谷間の低地に香合新田、上佐曾利、下佐曾利、長谷、大原野、波豆、境野、玉瀬、切畑等の集落が点在している。

イ 長尾山系

長尾山地は、大峰山の北に十万辻断層、南に中山断層が、その南に長尾山地山麓を有馬一高槻構造線の断層が東西に走っている。

長尾山地には、地域最高峰552.4mの大峰山をはじめ、476.5mの検見山、478.2mの中山など400mを超える山々が連なっている。

長尾山地の東部は、川西市との市境付近から高度を下げて、猪名川水系の山地となる。また長尾山地の南山麓に沿って武庫平野に接し川面、米谷、中山寺、中筋、山本、平井などの家並みが古くからある。

長尾山地の西部は谷が深く300m以上に切り立った急崖の下、西宮市との市境を武庫川が蛇行している。

宝塚市周辺の接峰面図



※ 等高線は30m間隔

宝塚地方地質図（市史……引用）

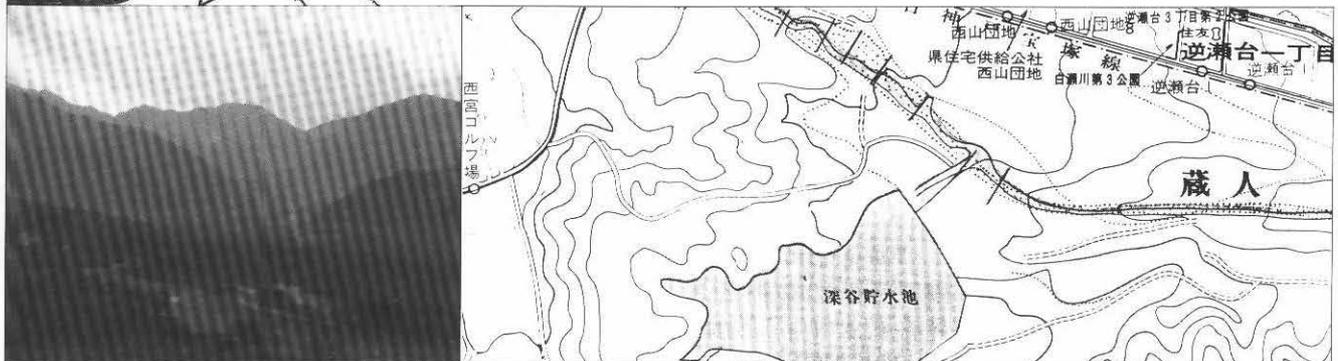
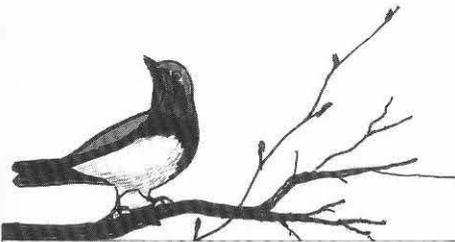
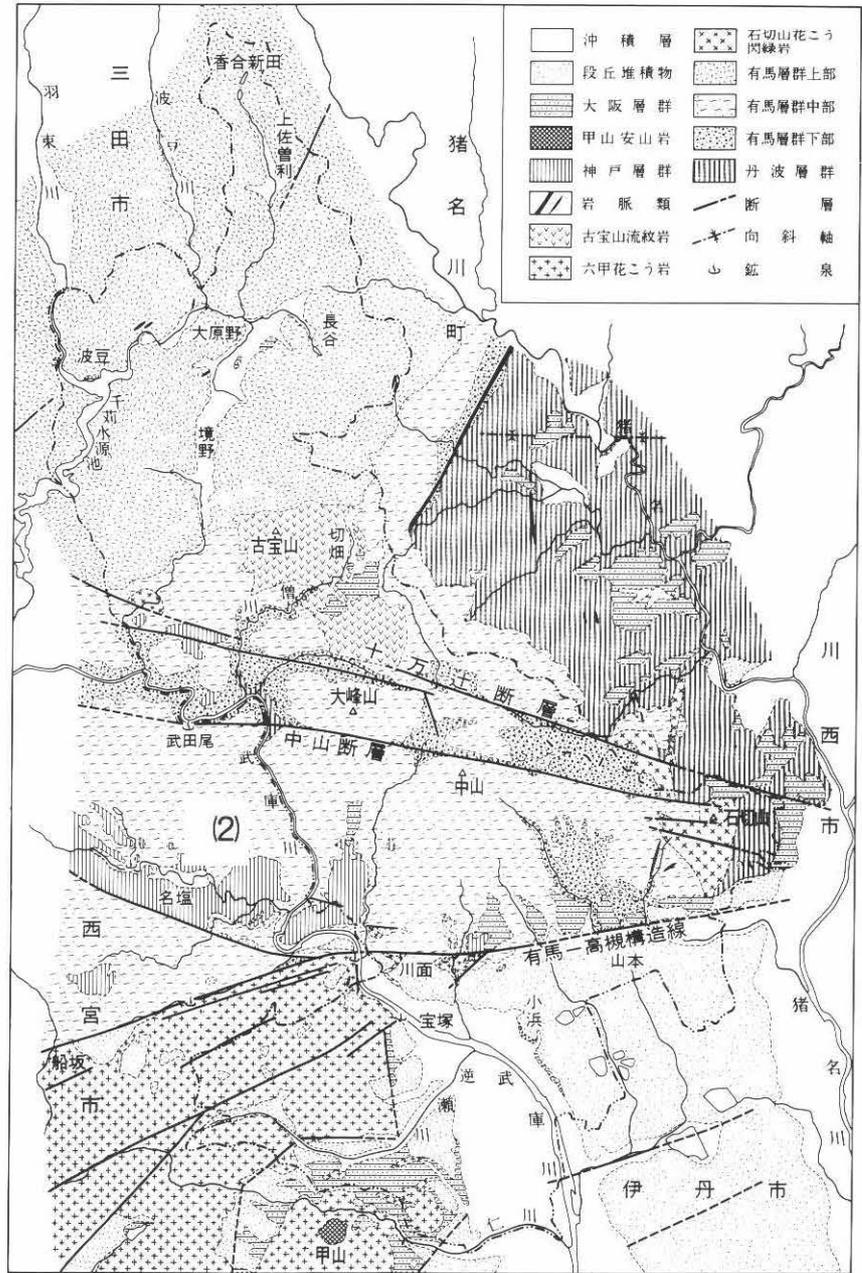
(2) 六甲山系

六甲山地は、宝塚市、西宮市、芦屋市、神戸市にわたる山地で、後期中生代の火成活動の一環である花こう岩類からできており、古生層や流紋岩類で構成される北摂山地と山地成立の違いがある。

六甲山地の東端、488.9mの岩倉山を中心とする花こう岩地で、市域最高峰571m通称岩原山のほか、500mを超す山が連なり、武庫川水系の山地となる。

自然環境に恵まれているため、蔵人、小林などの集落が古くから発達している。

六甲山地も断層が多く、六甲山地の北側には有馬-高槻構造線（六甲断層ともいう。）が、その南側には五助橋断層などがあり、この大きな2つの断層の間に六甲山地がある。



深谷貯水池付近



伊丹台地、安倉地区内の溜池

(3) 武庫平野

武庫平野は、北を北摂山地、西を六甲山地に、東は猪名川、南は大阪湾で形成された方形の平野である。

武庫平野は、次の台地、扇状地などに、わけることができる。

ア 武庫川左岸台地

宝塚市街地北部の高度50~60mの河岸段丘からなり、北部、東部には山地に続く斜面地を見られる。

イ 武庫川右岸台地

地形は武庫川右岸沿いに高度100~50mで低下する河岸段丘からなり、北部を塩谷川が、中部を逆瀬川が谷を刻む。

ウ 伊丹台地

宝塚市南東部から伊丹市に広がる高度40~20mの台地で、東を猪名川、西を武庫川に限られている。台地上には溜池があり、北から流れる川沿いに浅い起伏が見られる。

エ 東部低地

阪急、JR、国道176号などが通じる東西方向のこの地帯は、東部は北摂山地と伊丹台地に挟まれた浅い谷から、西部に伊丹台地に続く扇状地からなる。東部では最明寺川が東に流れ、西部には溜池が分布する。このような北摂山地南

麓を東西に続く浅い谷は有馬—高槻構造線に沿って形成されたもので、その北縁と南縁は断層で境となつていると考えられる。

オ 武庫川扇状地

主に逆瀬川との合流部より上流に発達し、下流では堤防沿いに細長く分布する。

カ 逆瀬川扇状地

武庫川右岸台地を刻む逆瀬川は、上流域の六甲山地の斜面崩壊が活発で、下流域に扇状地を形成する。地質は空隙の多い礫層からなる。

キ 武庫川低地

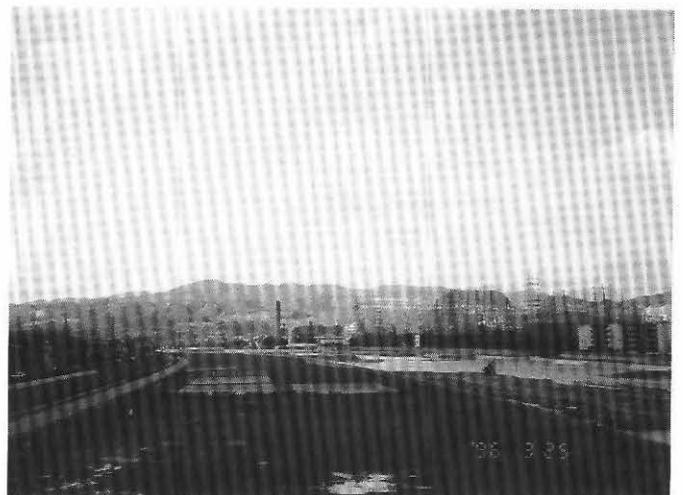
この地区は武庫川両岸の自然堤防と台地に挟まれた低湿な氾濫源からなる。

ク 仁川扇状地

武庫川低地を横断する仁川は、上流域の六甲山地の斜面崩壊により下流域に扇状地を形成し、天井川となっている。地質は空隙の多い砂礫層からなり、扇状地構造が未発達で武庫川低地を薄く被っている。

(4) 武庫川

2つの山地に多くの支流を持ち、武庫平野を南下する武庫川は、丹波の篠山盆地の南部に源を発し、三田盆地を流下、北摂山地に深い峡谷を刻ん



武庫川

第 2 章 地震動の概要

1 地震の諸元

(1) 名称

平成 7 年 (1995 年) 兵庫県南部地震

気象庁では、昭和 39 年の庁議決定以来、特に大きな災害を伴った気象・地震等について、命名を行なっている。(さかのぼって命名したものもある。) この地震も「平成 7 年 (1995 年) 兵庫県南部地震」と命名した。

しかし、被害の実態が明らかになるにつれて、深刻な被害等を強調した「阪神大震災」という呼称がマスコミを通じて流されいつのまにか定着した。

閣議懇談会で、呼称問題が取り上げられ政府は気象庁の地震に関する正式名称「兵庫県南部地震」とは別に、震災には「阪神・淡路」の通称名をつけることにした。

(2) 発生日時

平成 7 年 1 月 17 日 火曜日 午前 5 時 46 分 52 秒

(3) 震 央

兵庫県淡路島北部

北緯 34 度 36 分 4 秒、東経 135 度 02 分 6 秒

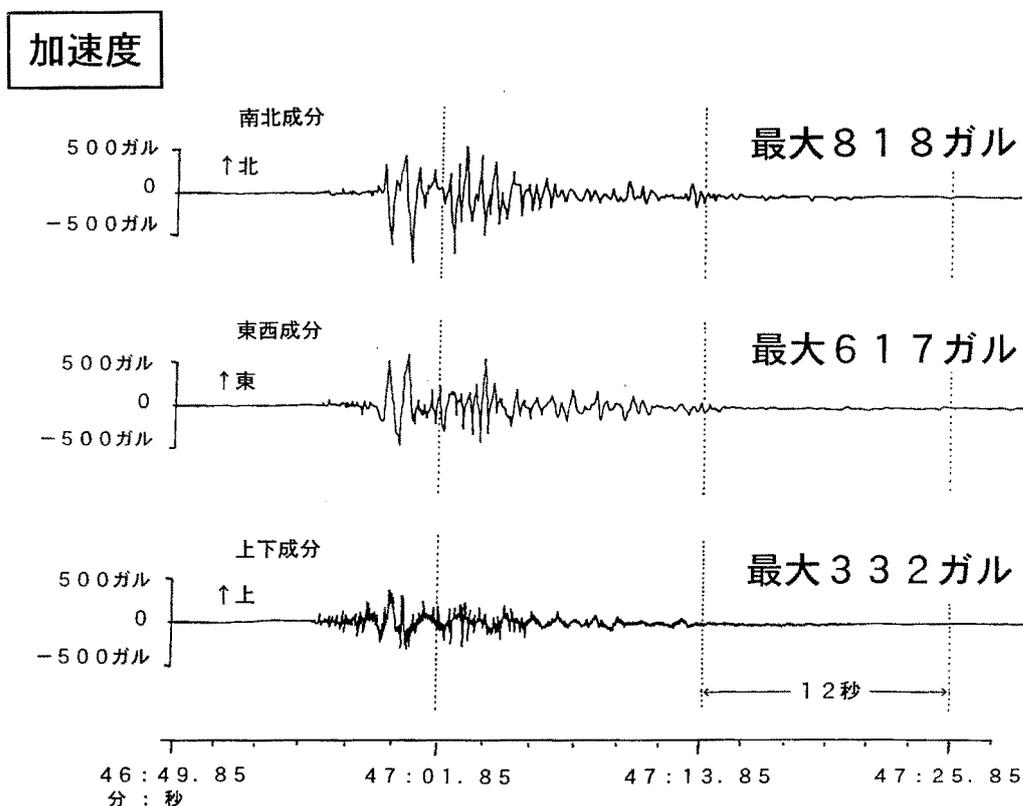
(4) 震源の深さ

14.3km

(5) 規 模

マグニチュード 7.2

神戸海洋気象台の電磁式強震計記録



(6) 加速度記録

JR宝塚駅で最大加速度601ガルを観測した。

加速度は理解しにくい、車のアクセルを思いだしてもらえばよくわかる。車の速度が変わると、そのつど大きな加速度を体にする。速度は、動いた距離を時間で割ったもので、速度の変化の割合を示す加速度は、速度をさらに時間で割ったもの（速度÷秒、cm÷秒＝ガル、ガルは加速度の単位）になる。地震動の加速度に大きく影響するのはその周期である。地球潮汐で大地は、毎日30cmほどの上下運動をくり返しているが誰も気が付かない。

しかし、大地が短い周期で30cmも振動すれば大地震である（兵庫県南部地震では20cm程度振動）兵庫県南部地震での最大加速度は818ガルである。

地震動の加速度が200～300ガルを超えると家屋が破損することがある。400～500ガルになると大きな被害になることが多い。

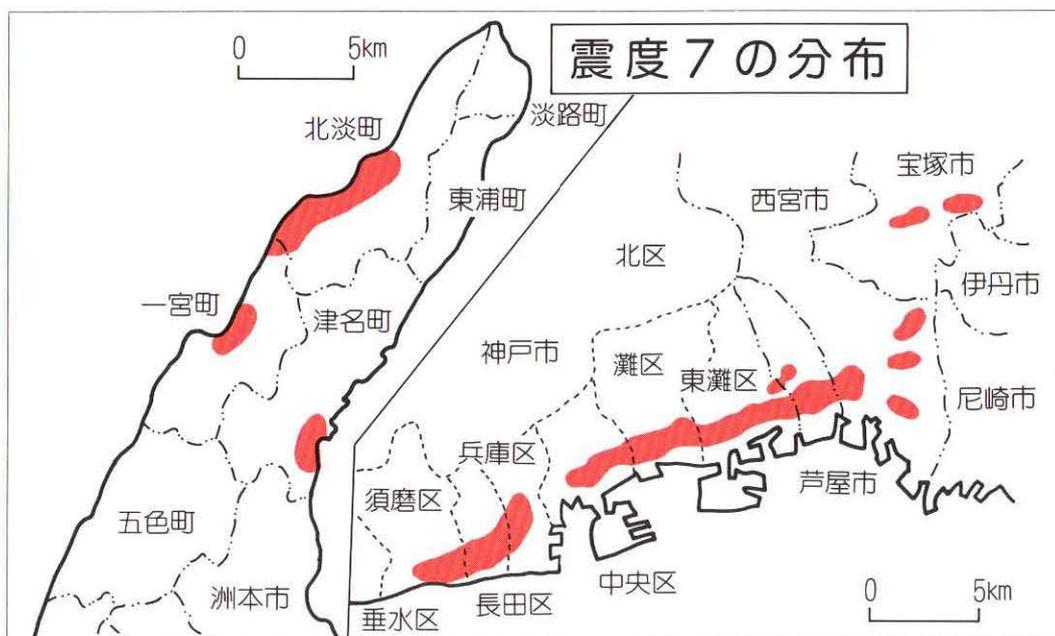
しかし、加速度が大きくても変位が小さければ大きな破壊は起こらない。

建物の構造や地盤などと地震動の周期、時間などが複雑にからみあって建物の破壊が発生するので加速度が大きいからといっていつも大被害になるわけではない。

2 各地の震度

平成7年1月17日、大阪管区气象台発表の各地の震度。

震度1	震度2	震度3	震度4	震度5	震度6
前橋	横浜	名古屋	姫路	豊岡	神戸
宇都宮	長野	輪島	大阪	彦根	洲本
新潟	甲府	金沢	津	京都	
網代	静岡	飯田	敦賀		
水戸	御前崎	富山	福井		
東京	松本	尾鷲	上野		
熊谷	高山	伊良湖	四日市		
福岡	浜松	萩	岐阜		
足摺	三島	山口	呉		
浜田	佐賀	西郷	境		
鹿児島	宿毛	広島	高知		
延岡	宇和島	松山	福山		
柿岡	人吉	室戸岬	徳島		
平戸	下関	米子	岡山		
小名浜	伏木	松江	高松		
千葉	河口湖	潮岬	舞鶴		
秩父	熊本	大分	和歌山		
館山	日田	諏訪	奈良		
阿蘇山	都城				
	宮崎				
	軽井沢				
	高田				



気象庁は被害に関する現地調査の結果、観測史上初めて震度7と認定しその分布をあきらかにした。

(平成7年2月7日 気象庁発表)

震 度 7	
●	宝塚市JR宝塚駅東側
●	宝塚市JR中山寺駅付近
○	神戸市須磨区JR須磨駅付近から兵庫区新開地まで
○	中央区JR三ノ宮駅付近から西宮市阪急夙川駅付近まで (幅約1km、長さ約20km)
○	芦屋市三条町付近の一部
○	芦屋市山手町の一部
○	西宮市甲東園付近
○	西宮市阪急西宮北口駅付近
○	西宮市阪神今津駅付近
○	北淡町、一宮町、津名町の一部

3 余震と地震観測

年月日	適 用
平成7年1月17日05時46分	JR宝塚駅の地震計が最大加速度601ガルを観測した。
1月17日	1月17日の余震発生回数は624回、うち有感地震は103回を観測した。
1月18日	1月17日以降余震発生回数は急激に減少、1月18日の余震発生回数は、97回、うち有感地震は18回。
平成7年1月19日12時	淡路北淡に気象庁が臨時観測点を設置、運用開始。
1月20日12時	神戸垂水に気象庁が臨時観測点を設置、運用開始。
1月20日19時	西宮に気象庁が臨時観測点を設置、運用開始。
1月25日12時	大阪西淀川に気象庁が臨時観測点を設置、運用開始。
2月17日18時	猪名川に気象庁が臨時観測点を設置、運用開始。
3月27日	気象庁がNTT宝塚営業所の地下に震度計を設置。
3月30日09時	気象庁が宝塚など20臨時観測点で震度観測を開始。
3月30日14時24分48.3秒	兵庫県東部で有感地震発生、地震の規模はM3.6で宝塚の臨時観測点で震度2を観測した。この地震は1月17日の大地震から287回目の有感地震で、地震速報で初めて宝塚の震度が報道された。
5月1日	宝塚市が宝塚市東消防署に地震計を設置、運用開始。
平成8年2月10日11時	平成7年1月17日から平成8年1月16日までの兵庫県南部地震の余震のうち有感地震発生回数は391回を観測。

4 地震の特徴

地震と断層とが切りはなせないものであることが最近明らかになってきた。今日では地震は急激な断層運動にともなって起こる現象と考えられている。

宝塚の地震の記録はほとんどない。しかし大断層で刻まれた宝塚は、有史以前には度々大地震が発生したと考えられる現象が多く残っている。

現在の知識から、宝塚に関係のある大地震の発生源は2つある、第1は紀州沖を本州と平行に走る断層によっておこる巨大地震、第2は、直下型地震で、内陸部の断層運動にともなって起こるものである。

これまでの経験から紀州沖を震源とする巨大地震は距離があり、宝塚付近は強烈に振動して

も、家屋倒壊などの直接の被害を受けることはすくない、一方内陸部に発生する直下型地震では、震源地付近の都市は大被害を受けている。今回の地震は直下型地震で、昭和18年の鳥取地震、昭和23年の福井地震などがこれにあたる。

宝塚付近の震度では、明治24年に岐阜県で起こった濃尾地震のときに震度5を記録しているが、その他の最近の大地震では、震度4程度であった。

地震資料から京都などでマグニチュード7を越す大地震が発生しており、この時の宝塚地方は、震度は5あるいは6に達したと推定される。宝塚市史から宝塚市域に影響を与えたと考えられる地震の震度等は、次表のとおりである。

年	名称	マグニチュード	震度	備考
1891(明治24)	濃尾地震	8級	5	直下型
1927(昭和2)	北丹後地震	7級	4	直下型
1943(昭和18)	鳥取地震	7級	4	直下型
1944(昭和19)	東南海地震	8級	4	南海沖
1946(昭和21)	南海道地震	8級	4	南海道沖
1948(昭和23)	福井地震	7級	4	直下型

5 参考

気象庁震度階級の改正

今日までの震度階級は、1884年(明治17年)に作られた4階級のものが原型になっている。その後、4回改良され、福井地震(昭和23年)をきっかけに翌年、震度7が新設されて以来震度0から7の8階級となった。

しかし、気象庁の地震情報は、極めて重要な情報であるが、兵庫県南部地震の経験などから、同じ震度であっても被害等の違いが生じていた、また、内容説明についても現代社会に適合していなかったなどから被害想定を容易にするため下記のとおり改定、平成8年10月1日から適用されている。

改正された気象庁震度階級関連解説表

計測震度	階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建築	鉄筋コンクリート建物	ライフライン	地盤・斜面
0.5	0	人は揺れを感じない。						
	1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。						
1.5	2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。眠っている人の一部が目覚めます。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。					
	3	屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。恐怖感を覚えるひと多い。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。				
3.5	4	かなりの恐怖感があり一部の人には身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚めます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。				
	5(弱)	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないプロック扉が崩れることがある。道路に被害を生じることがある。	耐震性の低い住宅では壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物は、壁などに亀裂が生じるものがある。	安全装置が作動し、ガスが遮断される家庭がある。まれに水道管の被害が発生し、断水することがある。(停電する家庭もある。)	軟弱な地盤で、亀裂が生じることがある。山地で落石、小さな崩壊が生じることがある。
5.0	5(強)	非常な恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸がはずれる。	補強されていないプロック扉の多くが崩れる。多くの壁が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する事が多い。	耐震性の低い住宅では壁、柱がかなり破損したり、傾くものがある。	耐震性の低い建物では壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。耐震性の高い建物でも、壁などに亀裂が生じるものがある。	家庭などにガスが供給するための配管、主要な水道管に被害が発生することがある。(一部の地域でガス、水道の供給が停止することがある。)	
	6(弱)	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも壁、柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物では壁、柱が破損するものがある。耐震性の高い建物でも壁、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。	家庭などにガスが供給するための配管、主要な水道管に被害が発生する。(一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することがある。)	地割れや山崩れなどが発生することがある。
6.0	6(強)	立っていることができず、這わないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはすれて飛ぶことがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないプロック扉のほとんどが崩れる。	耐震性の低い住宅では倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも壁、柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い建物では倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも壁、柱が破損するものがある。	ガスを地域に送るための配管、水道の記水施設に被害が発生することがある。(一部の地域で停電する。広い地域でガス、水道の供給が停止することがある。)	
	7	揺れに翻弄され、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛びものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているプロック扉も破損するものがある。	耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破壊するものがある。	耐震性の高い建物でも傾いたり、大きく破壊するものがある。	(広い地域で電気、ガス、水道の供給が停止する。)	大きな地割れ、地すべりや山崩れが発生し、地形が変わることがある。

※ ライフラインの()内の事項は、参考事項

第 3 章 被害の状況

1 総論

兵庫県南部を直撃したこの地震は、各地に未曾有の被害をもたらした。

宝塚市においても、JR宝塚駅東側、JR中山寺駅付近で震度7を記録。尊い命を数多く奪っただけでなく、家屋、鉄道、道路、各種施設を破壊しライフラインに壊滅的な打撃を与えた。

死 者	6,308名 (平成7年12月26日現在)
負 傷 者	約41,500名 (平成7年5月末現在)
焼失家屋	7,456戸 (平成7年2月17日現在)
家屋倒壊	171,481戸 (平成7年3月13日現在)

2 宝塚市の人的被害状況

(1) 死 者

宝塚市内では地震により118名(男43名、女75名)が死亡した(平成8年6月4日現在)。

性別、年齢別死者数

年 代	0 9	10 19	20 29	30 39	40 49	50 59	60 69	70 79	80 89	90 99	計
男	1	5	5	1	2	8	15	6			43
女	2	5	3	5	5	3	16	15	18	3	75
計	3	10	8	5	6	5	24	30	24	3	118

(2) 負傷者

地震による宝塚市内の負傷者は2,201名(重症60名、軽傷2,141名)発生した(平成8年1月22日現在)。

3 宝塚市の物的被害状況

(1) 建 物

① 火 災

地震発生直後から4件の火災が発生し、4棟がり災し焼損面積は183㎡、り災世帯4世帯、り災人員は9名であったが、火災による死傷者はなかった。

4件の火災のうち、炎上火災は2件であったが、消火栓が断水で使用不能となったため、遠距離の防火水槽、溜池から中継送水を行い消火した。



火災により全焼した家屋

② 建物の倒壊等

市内の家屋被害は、全壊3,553棟5,535世帯、半壊9,296棟14,737世帯、一部損壊14,305棟20,905世帯で市内全世帯71,547世帯の約58%にあたる41,177世帯に被害があった。(平成8年1月22日現在)。

住家被害状況

被害区分	棟	世帯
全 壊	3,553	5,535
半 壊	9,296	14,737
一部損壊	14,305	20,905
合 計	27,154	41,177

また、地形の特徴、地質、地盤の条件、住宅地開発年次などの土地条件の組合せにより、それぞれの地区に次のような特徴が認められる。

(長尾山系)

市街地北部のこの地区の地形は北摂山地からなり、山麓を東西に有馬一高槻構造線の主断層が通る。

山麓地には昭和初期より住宅地の形成が始まり、近年は稜線部の緩斜面で大規模な住宅地が造成されている。

この地区の被害に顕著なものは少ないが、宅造法施工前の比較的古い造成地では谷筋の盛土地盤に沈下や亀裂が見られ家屋の損壊も生じている。今回の震災では断層との関係が注目されているが、長尾山系地区の南縁を通る有馬一高槻構造線の主断層沿いでの断層の移動は特に認められていない。

(六甲山系)

六甲山地東部のこの地区の地形は岩倉山(489m)の東斜面と山麓地からなる。山地の南を逆瀬川が北部を塩谷川が浸食し、谷沿いに急斜面が発達する。

この地区では昭和30年代より山麓地を造成して住宅地を形成してきたが、比較的古い宅造法施行前の造成地で宅地の亀裂や住宅の損壊が目立っている。

この地区では地盤が比較的丈夫な尾根筋やその切土地盤にも亀裂が生じている。



紅葉ガ丘の被害

(武庫川左岸台地)

宝塚市街地北部のこの地区の地形は高度50~60mの河岸段丘からなり、その北部や東部には山地に続く斜面地も見られる。

この地区では街道に沿って集落を形成しているが、この震災が激しく、古くからの木造住宅がのきなみに倒壊しており、新しい住宅が健在なのと対照的である。北部や東部の斜面地では谷沿いや、谷の埋立造成地で被害が激しい傾向が見られる。



川面地区、家屋の被害

(武庫川右岸台地)

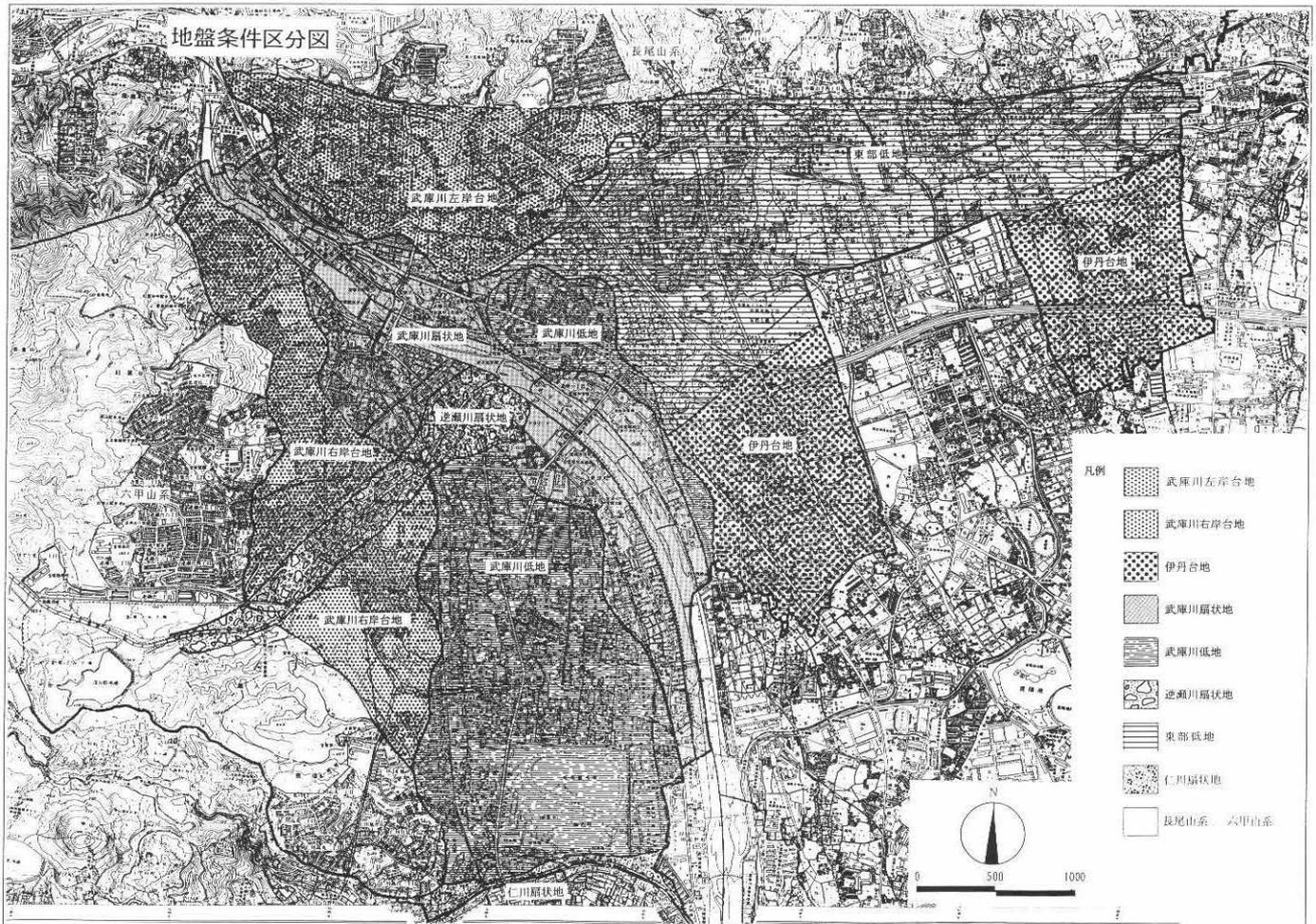
地形は武庫川右岸沿いに高度100~50mで低下する河岸段丘からなり、北部を塩谷川が、中部を逆瀬川が谷を刻む。住宅の損壊は台地の周辺に分布するが、台地内に点在するものは谷の埋立地盤によるものと考えられる。

(伊丹台地)

宝塚市南東部から伊丹市に広がる高度40~20mの台地で、東を猪名川、西を武庫川に限られている。台地上には溜池があり、北から流れる川沿いに浅い起伏が見られる。地震被害は比較的少ないが旧集落地に家屋の損壊が見られる。

(東部低地)

阪急、JR、国道176号などが通じる東西方向のこの地帯は、東部は北摂山地と伊丹台地に挟まれた浅い谷から、西部に伊丹台地に続く扇状地からなる。東部では最明寺川が東に流れ、西



部には溜池が分布する。このような北摂山地南麓を東西に続く浅い谷は有馬-高槻構造線に沿って形成されたもので、その北縁と南縁は断層で境となつていていると考えられる。

この地帯には地震被害の集中箇所が幾つか見られ、旧集落の家屋、昭和30~40年代の住宅、及びマンションなど損壊家屋はさまざまである。



構造線沿いで地層がもまれて強度が低下していること、強度が高い北摂山地と伊丹台地に挟まれ、地震のエネルギーが集中しやすいこと、表層に軟弱層が分布すること、地下水が豊富なことなどから、地震被害が大きかったと考えられる。

(武庫川扇状地)

この地区は、主に逆瀬川との合流部より上流に発達し、下流では堤防沿いに細長く分布する。地震被害の集中箇所は少ないが、締めりの緩い礫層や砂礫層に地盤破壊が生じ、家屋が損壊したと考えられる。

(逆瀬川扇状地)

武庫川右岸台地を刻む逆瀬川は、上流域の六甲山地の斜面崩壊が活発で、下流域に扇状地を形成する。その地質は空隙の多い礫層からなる。武庫川扇状地と同様、地震被害の集中はあまり

見られない。

(武庫川低地)

この地区は武庫川両岸の自然堤防と台地に挟まれた低湿な氾濫源からなる。武庫川左岸、右岸の比較的古い木造家屋の倒壊が顕著である。また、右岸では一部地盤の沈下が見られた。



(仁川扇状地)

武庫川低地を横断する仁川は、上流域の六甲山地の斜面崩壊により下流域に扇状地を形成し、天井川となっている。その地質は空隙の多い砂礫層からなり、扇状地構造が未発達で武庫川低地を薄く被っている。地盤は下位の武庫川低地の軟弱な地盤を反映し、地震被害が比較的顕著である。



阪急仁川駅近辺

③ 危険物施設の被害等

地震により何らかの被害を受けた危険物施設は39件(36事業所)で全施設(279施設)の14%にあたる。



危険物施設の被害

損傷程度を大別すると次のとおりになる。

ア 営業、操業に影響する被害があり、大規模に、若しくは緊急に改修する必要がある。	(例～建物損壊、危険物貯蔵タンク・配管及び関連設備の損傷等)	9件
イ 施設の使用に支障がない程度の被害で、小規模の補修で足りる。	(例～壁、床、へい等の亀裂及び危険物以外の設備の損傷等)	23件
ウ その他	(例～危険物施設に異状はないが建物損壊等で運転中止している事業所等)	7件

今回の震災で危険物漏洩事故が1件と建物倒壊・損壊により、廃止若しくは営業中止を余儀なくされた事業所が数件あるものの、大規模な危険物災害は発生しなかった。危険物保有事業所の9割以上が致命的な被害も受けず、若しくは無被害であった。

被害の内容についても、地下タンク、油配管

の損傷など、施設の一時的な停止はあったが、すべて改修、復旧可能である。

④ 公共施設の被害等

ア 市役所、市立病院等の公共施設が破損した。



公共施設の被害

イ 小中学校36校の全校で損壊があり、長尾中・宝塚第一中・宝塚小については一部建替えのため校舎解体を決定した。



大きな被害を受け解体される長尾中学校の校舎

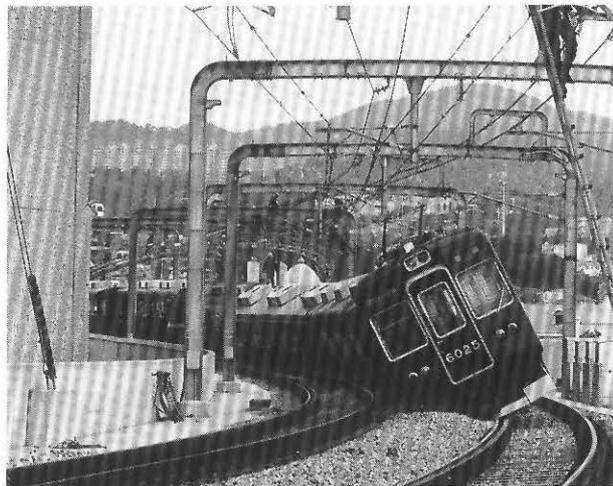
ウ 中央図書館、隣保館等施設が破損した。

エ ソリオホール、ベガ・ホール、手塚治虫記念館等文化施設が破損した。

オ 市立スポーツセンター等のスポーツ施設が破損した。

(2) 交通機関

① 鉄軌道



電車の被害

JR宝塚線、阪急宝塚線・今津線の線路施設などが大きな被害を受け不通となったが、JR宝塚線、阪急宝塚線は1月19日に全線開通。阪急今津線も2月5日に全線開通した。

② 道路

中国自動車道が橋脚の破損により不通となったほか、橋の破損や高架物の落下、建築物の倒壊、陥没等により道路が寸断されるなど多数の被害が発生した。



中国道橋脚の被害

(3) ライフライン

① 水道

災害時、供給している74,000戸の68%に相当する約50,000戸が断水したが、2月24日には全戸仮復旧した。

水道施設の被害は、生瀬、小林浄水場で施設の一部が破損したほか、送水管の破損は6カ所、配水管の破損は300カ所、道路内給水管の破損1,700カ所、宅地内給水管は5,800カ所が破損した。



給水車による給水

② 下水道

一部管渠（11カ所、3,100m）が破損したが、機能停止は免れた。

③ 電気

災害時には市内全域にわたり停電したが、災害当日の08時52分に武庫川右岸全域が復旧し、13時01分武庫川左岸の一部を除き復旧、発災3日後の1月20日には完全復旧した。

④ ガス

市内各地でガス漏れが発生し、供給戸数75,700戸の89%にあたる67,400戸で供給を停止した。

復旧作業は難航したが3月25日に市内全域が完全復旧した。

⑤ 電話

発災後、市内で7,100回線が不通となったが、家屋倒壊によりNTT預かりとなった3,600回線を除き、2月9日までに3,500回線が復旧した。

(4) 産業

① 観光関連サービス業

ファミリーランド、歌劇、阪神競馬場、旅館等に多大な被害が発生した。

宝塚大劇場は、スプリンクラー設備の配管破損により客席全体が水損するなど大きな被害が発生し、3月30日まで休演した。



ファミリーランド・立体動物園の被害

② 工業

工場建物の全壊被害は少なかったが、製造機械などの内部設備に甚大な被害があった。



工場実験室の被害

③ 地場産業

山本・中筋地区の植木、花卉生産農家の倉庫、

事務所等構築物の損壊があった。

④ 市場・商店街

仁川駅前、花のみち、清荒神市場、太平市場、売布神社駅前等の市場・商店街が全・半壊する甚大な被害があった。



花のみちの被害

また、サンピオラ、アピア、ソリオ等の再開発地区にも一部損壊の被害があった。

(5) 文化財

国指定重要文化財である中筋八幡神社の覆屋・本殿が倒壊したほか、県・市指定の文化財が被害を受けた。



中筋八幡神社の被害

文化財の被害状況

文化財名	区分	所在地	被害状況
中筋八幡神社 本殿	国重要 文化財	中筋2丁目91	覆屋・本殿の倒壊
高司素盞鳴神社 本殿	県指定	高司2丁目160	覆屋柱倒壊、左相 殿のズレ
中山寺 本堂	県指定	中山寺2丁目11	瓦の落下(若干)
中山寺 大門	県指定	中山寺2丁目11	瓦の落下(若干)
旧東家住宅 (歴史民族資料館)	県指定	大原野字松尾1	屋根の沈み
売布神社 社号 標石	市指定	売布山手町1-1	標石の割れ

第 4 章

消防機関の対応

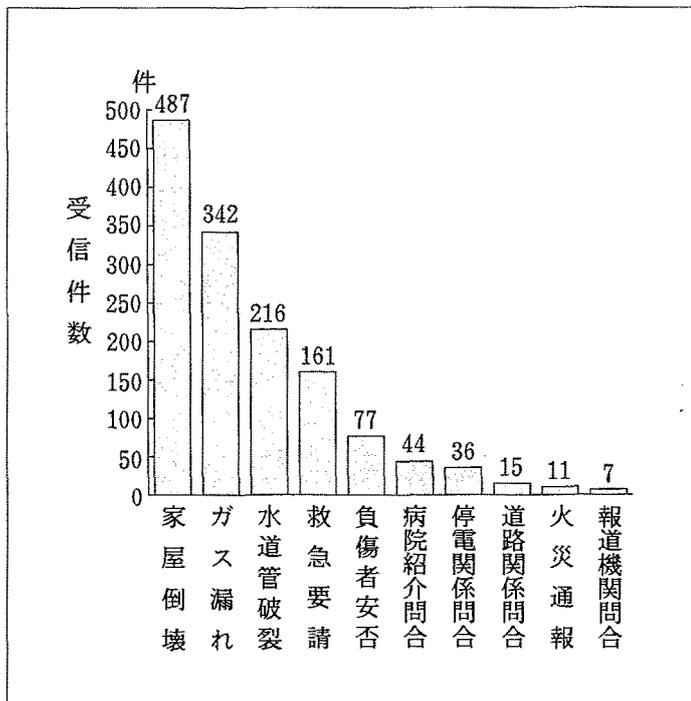
1 消防活動の概要

(1) 初動時（覚知）の概要

05時46分地震発生直後、119番10線程度が点灯、数秒後21回線全ての表示灯が点灯し、一斉にベルが鳴り、当直4名の通信係員で対応した。それ以降も、119番通報は止むことなく続いた。受信回数は、09時まで約500件、17日だけで1,400件を数え、これは通常の20倍の受信回数であった。

第1報は、ガス漏れであったので、西消防署のタンク車が出動した。その後も119番通報や各署への駆け込み通報が続き、ガス漏れ、家屋倒壊による生き埋め、火災等に東西両署の当務員59名で初動対応した。

通報内容別受信状況



(2) 火災防御の概要

地震の発生に伴い、05時59分から13時17分までに4件の火災が発生し、車両1台の他、全焼2棟・部分焼2棟合計4棟がり災した。延べ焼損面積は183㎡、り災世帯4世帯、り災人員は9名であったが死傷者はなかった。4件の火災のうち炎上したのは2件で、13時17分に屋内配線のスパークにより発生した火災は、専用住宅2棟を全焼した。この火災には、消防署から8台、38名及び消防団から4台22名が出動して火災防御を行った。しかし、地震による断水で消火栓が使用不能になったため、遠距離にある防火水槽及び溜め池を使用し、消防車3台によって中継送水を行い消火活動を実施した。

火災発生及び活動状況

区分 番号	覚知時間		発生場所	火災 種別	消防隊		消防団	
	覚知時間	鎮火時間			車両	人員	車両	人員
1	05:59		高司5丁目	車両	3	13	0	0
	06:15		共同住宅					
2	05:59		中山寺1丁目	建物	1	3	0	0
	06:40		店舗付マンション					
3	11:33		南ひばりが丘2丁目	建物	4	17	2	8
	11:36		共同住宅					
4	13:17		清荒神2丁目	建物	8	38	4	22
	14:36		専用住宅					
合計					16	71	6	30

(3) 救助活動の概要

東西両署の救助隊2隊をはじめ警防隊は、各所持区域内の生き埋め現場へ出動し消防団、警察、市民とともに救助活動を行った。

木造家屋の倒壊においては、チェーンソーやジャッキ等の資機材が役立ったが、その数量は不足していた。コンクリート造のビルの崩壊は1件発生したが、要救助者はなかった。しかし、エレベーター内の閉じ込めには4件出動し、4人を救助した。

建物構造別救助活動状況

区 分		木 造	コンクリート造	計
件 数		43	7	50
救 出 人 員	無 傷 者	10	4	14
	負 傷 者	20	0	20
	死 者	29	0	29
	計	59	4	63
消 防 隊	延出動車両	74	8	82
	延出動人員	323	31	354

(4) 救急活動の概要

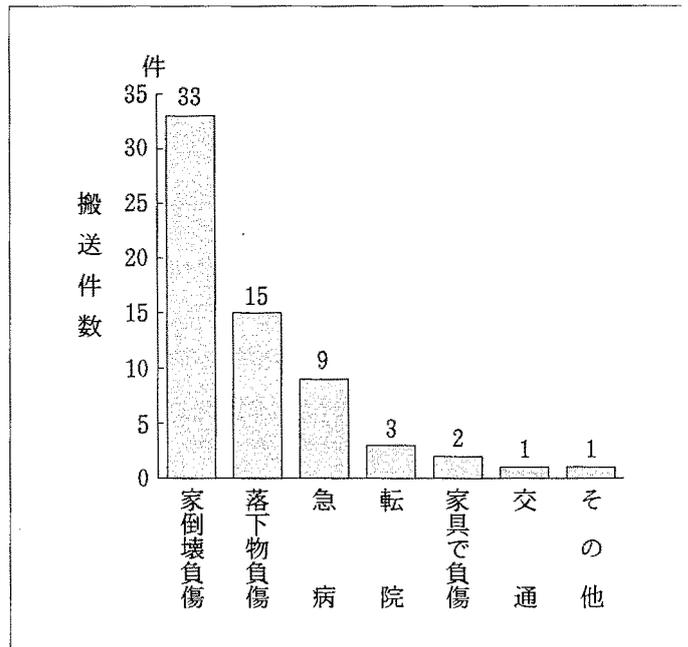
地震発生直後から、救急要請が殺到し、17日中には64件の出動をした。これは、通常の5～6倍の件数であった。また、電話回線の不通、混乱により消防署近辺からの駆け込み通報が目立った。

しかし、通信指令室勤務員の判断で重症者と思われる事案については、近くの病院を紹介し、自力対応させた。さらに、予備の救急車による救急隊1隊を増強し、5台の救急車で対応した。

時間別救急出動状況

時 間 別	件 数	時 間 別	件 数
05：46～06：00	1	15：00～16：00	4
06：00～07：00	7	16：00～17：00	1
07：00～08：00	4	17：00～18：00	1
08：00～09：00	5	18：00～19：00	0
09：00～10：00	9	19：00～20：00	2
10：00～11：00	8	20：00～21：00	1
11：00～12：00	8	21：00～22：00	3
12：00～13：00	2	22：00～23：00	5
13：00～14：00	1	23：00～24：00	1
14：00～15：00	1	計	64

原因別救急搬送状況



(5) 情報活動の概要

地震発生直後は、通信係員が4名で対応し119番の受信順に消防隊及び救急隊を出動させたが、多数の車両が、災害現場で活動を展開したため、無線が輻輳し、出動隊の的確な情報が届けられなくなったが、05時58分に消防本部災害対策本部を設置し情報班による的確な情報収集に努め、緊急度の高い災害情報を選別し、消防隊に出動指令すると共に情報の把握に努めた。

また、大阪ガス、関西電力、水道局等のライフライン関係の正確な情報による的確な情報収集がスムーズにできたため、市民からの問い合わせの処理が適切に行えた。

特に、水道断水を考慮し早期に人工透析を受け入れてくれる病院を調査し把握していたため、市内及び市外の病院からの問い合わせに対して、100パーセント紹介できた。

また、17時ごろからは、非番員及び毎日勤務者等で班編成を行い、市内の道路状況や溜め池等の調査を実施し、情報収集を行った。

2 消防体制

消防職・団員定数の推移

平成7年1月17日現在

(1) 人員・車両

宝塚市消防本部の職員数は215名であり、そのうち本部職員を含む毎日勤務者は35名で、隔日勤務者は180名であり、消防車両は合計41台保有している。また消防団員数は、191名で消防車両は12台保有している。詳細は下表に示すとおりである。

区分	平成 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
消防 職員	200	199	201	205	209	215
消防 団員	191	191	191	191	191	191

消防車両等配置状況

平成7年1月17日現在

配置場所 配置車両		合 計	消 防 本 部	西 消 防 署					東 消 防 署				消防団 11 分 団
				本 署	南出 張 部所	栄出 張 町所	宝出 松張 苑所	西分 遣 谷所	本 署	雲出 雀張 丘所	米出 張 谷所	中出 山張 台所	
総	数	41	9	8	3	3	2	1	8	2	2	3	12
消 防 用 車 両	ポンプ車	9	1	1	1	1	1		1	1	1	1	5
	タンク車	7		1	1	1	1			1	1	1	
	はしご車	3		1	1							1	
	スノーケル車	1							1				
	化学車	1							1				
	救助工作車	1		1									
	指揮車	3	1	1					1				1
	査察広報車	4	2	1					1				
	人員搬送車	1	1										
	資機材搬送車	2	1						1				6
	救急車	5		2		1		1	1				
	防火広報車	1							1				
防災指導車	1	1											
その他 の車両	乗用車	1	1										
	業務連絡車	1	1										

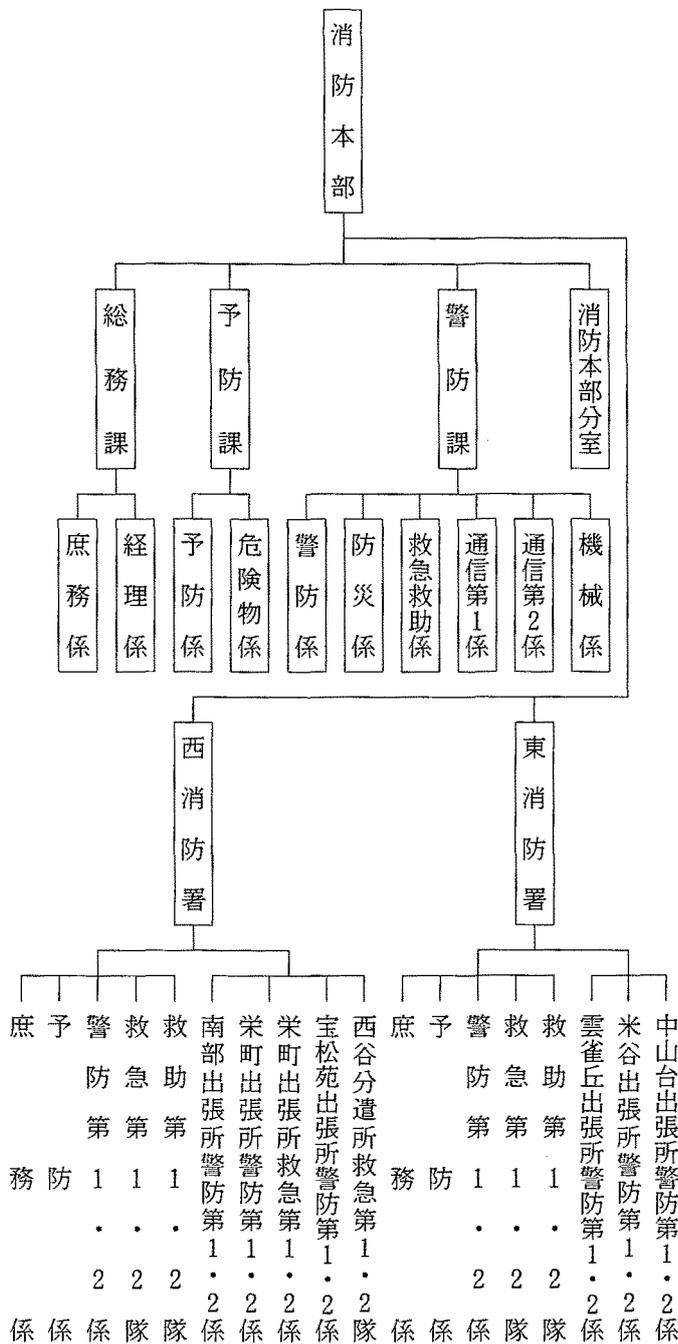
(2) 組織

宝塚市消防本部の組織は、本部3課、2消防署、6出張所、1分遣所がある。また宝塚市消防団の組織は、1団本部、11分団があり、それぞれ下図に示すとおりである。

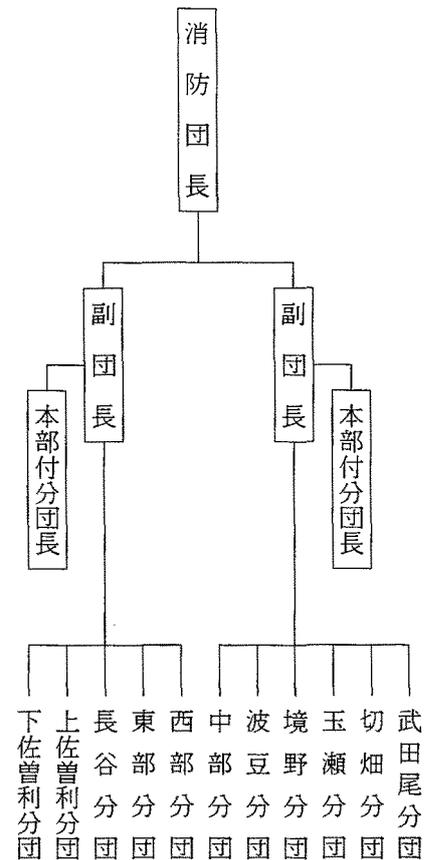
(3) 予算

平成6年度の消防本部予算は、総額24億2300万円となっている。そのうち人件費は92.3%を占めている。また、消防予算が一般会計に占める割合は3.4%である。

宝塚市消防本部の組織（平成7年1月17日現在）



宝塚市消防団の組織



(4) 基本的な消防力

ア 宝塚市消防本部が消防活動を行う場合の出動基準は宝塚市消防活動要綱第18条の規定に基づく

と

建物火災では

第1出動 ポンプ車4台、救助工作車1台

第2出動 // 3台、指揮車2台

第3出動 // 1台、はしご車1台

特別第1出動 ポンプ車、はしご車等6台

(非番員運用)

以上の他、火災等の災害規模等に応じて、ポンプ車、はしご車、救急車、資機材搬送車等27台が非番職員の非常招集によって特別第2出動することになっている。

イ 宝塚市消防職員非常招集実施に関する規程第3条、第4条では、招集の区分及び人員並びに招集の種別を次のように定めている。

(ア) 招集の区分及び人員(第3条)

区分	災害の状況	人員
第1号招集	災害の調査及び広報活動等が必要な状況	必要最小限の職員
第2号招集	一定の消防部隊の増強を必要とする状況	全職員の2分の1相当
第3号招集	全職員の配備を必要とする状況	全職員

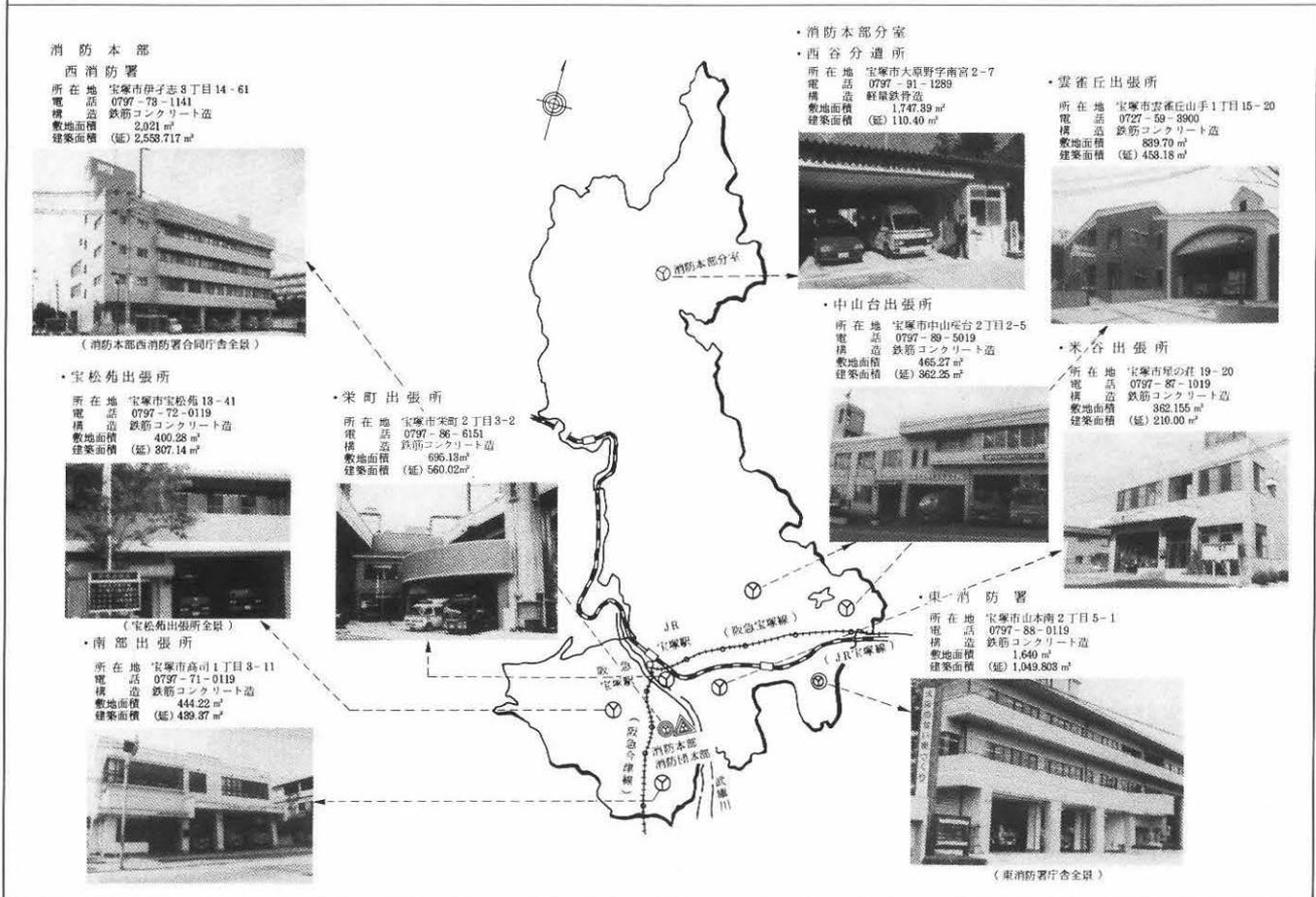
(イ) 招集の種別(第4条)

a 風水害時等非常招集

あらかじめ災害発生の恐れ及び規模が予測できる風水害等で、時間的余裕のある場合における招集をいう。

消防本部施設の配置状況

平成7年4月1日現在



b 火災時等非常招集

突発的な火災及び地震等の大災害発生等で、時間的余裕のない場合における招集をいう。

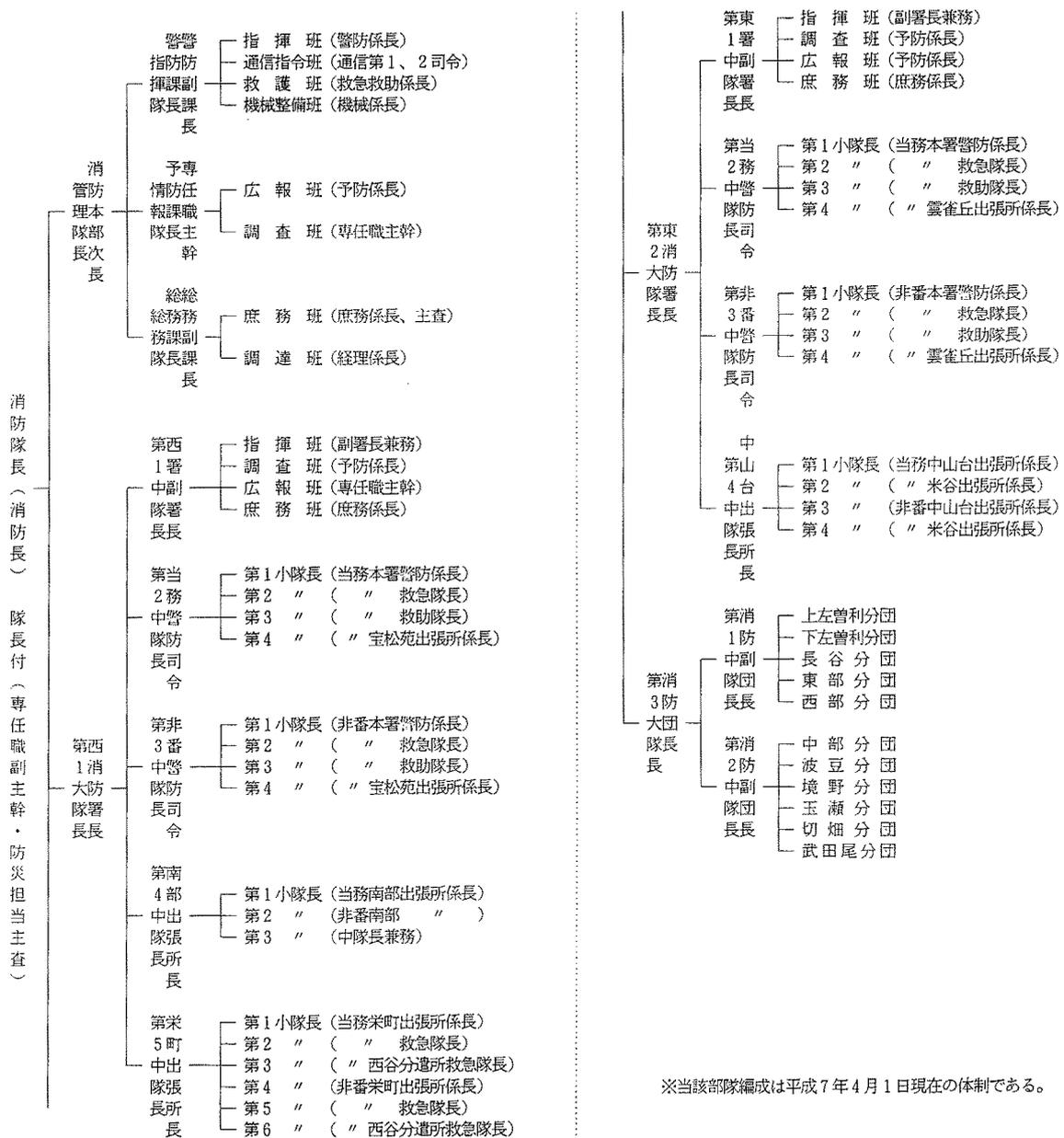
c 非常参集

職員が知り得た情報で災害の発生を予測又は覚知した場合若しくは震度5（気象庁震度階）以上の地震を認知した場合に、前各号にかかわらず自らその状況を判断し、

あらかじめ指定された場所又は災害現場に参集することをいう。

ウ 大規模災害発生時の部隊編成に関する運用要領に基づき、風水害、地震その他の大規模災害の発生又は、予想される場合に際して、地域防災計画が定める「災害発生時の部隊編成及び業務分担」のとおり、消防長が消防隊長として部隊編成が行われる。

災害発生時の部隊編成及び業務分担

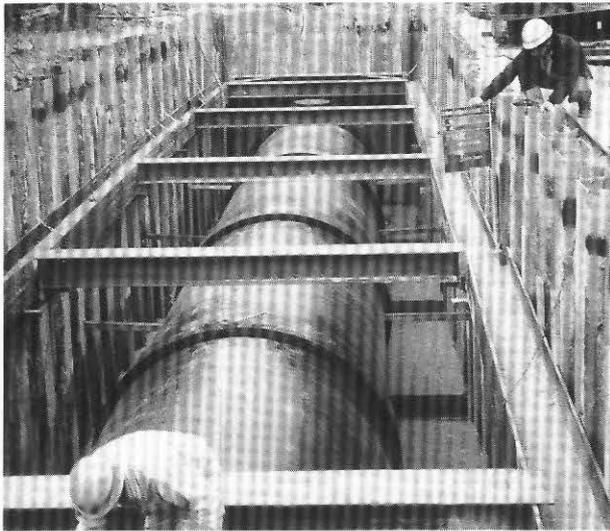


※当該部隊編成は平成7年4月1日現在の体制である。

(5) 消防水利状況

宝塚市内の消防水利の状況は、総数3,304基設置され、そのうち公設消火栓は、2,777基(84%)である。

地震発生直後には、市内全体にわたって配水管の損壊により断水状態になり、火災の消火は遠距離にある防火水槽や溜め池等を使用した。



飲料水兼用耐震性防火水槽（100m³級）

防火水槽は、市内に453基設置されている。このうち、公設防火水槽は335基である。また、震災対策として、容量100m³の耐震防火水槽が市内に9基設置されている。

耐震性以外の防火水槽にあつては、総数444基のうち、64基(14.4%)が地震により、躯体の一部又は採水管が損傷を受け、減水や吸水不能になった。

今回の震災を踏まえ、飲料水兼用の100m³貯水槽4基を平成7年度、8年度の継続事業として下記のとおり事業着手している。

平成7年度	市立良元小学校校庭内	1基
〈工事完成〉	市立スポーツセンター敷内	1基
平成8年度	市立御殿山中学校校庭内	1基
〈工事中〉	市立中山台コミュニティセンター 仮設駐車場敷内	1基

3 消防活動

(1) 震災当日の消防体制

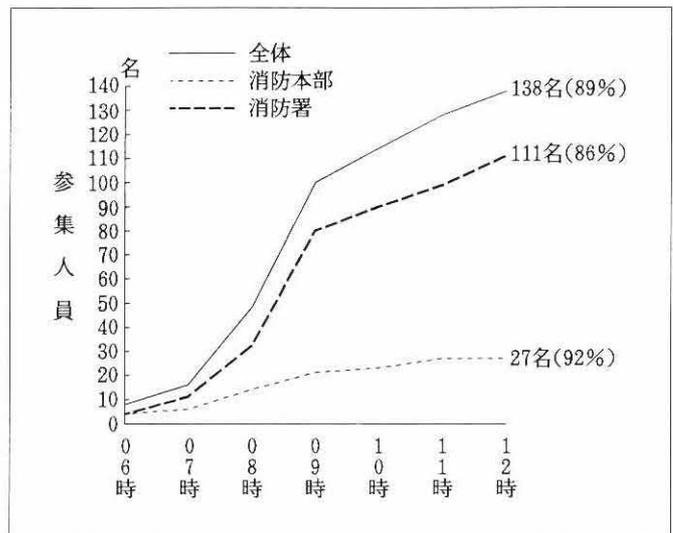
ア 初動時の体制

地震発生時の各署の部隊編成は、当直16小隊、当直勤務員59名で初動対応した。

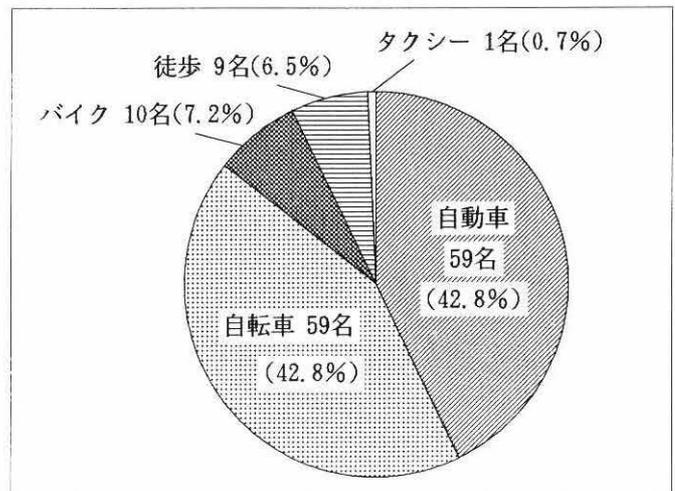
イ 非常招集参集状況

非番職員等は大半が自主参集を行い、発災から約3時間後の09時00分には、対象職員156名中100名(64.1%)が、12時00分には138名(89%)が参集し、総勢197名で災害発生時の消防部隊を編成し、各大隊長指揮で活動した。

時間別非常招集の参集状況



交通手段別非常招集の参集状況



(2) 1.17 消防活動ドキュメント!!

- 05:46 ・兵庫県南部地震発生
- 05:47 ・消防本部庁舎停電し、非常電源に切り替わる。
 - ・119番全21回線点灯、ベル鳴動する。
- 05:48 ・ガス漏れ警戒出動 伊予志2丁目地先西署 車両1台、5名
- 05:49 ・消防無線（基地局5、前進基地局3）の交信不能が判明したため、携帯移動局開局
- 05:50 ・各署所へ市民が殺到し、各署所の小隊長判断で出動する。
- 05:51 ・指令台組み込み有線電話で消防長及び警防課長等へ状況報告をする。
 - ・家屋倒壊救出出動 山本東3丁目東署 車両2台、12名、救出2名
 - ・家屋倒壊救出出動 星の荘米谷出張所 車両1台、4名 救出3名
- 05:53 ・大阪ガス、関西電力、宝塚警察へ連絡する。
- 05:55 ・震災による東署第1号救急出動する。
 - ・建物火災出動 中山寺1丁目中山台出張所 車両1台、3名
 - ・家屋倒壊救出出動 中筋1丁目中山台出張所 車両1台、4名 救出2名



- 05:58 ・消防本部災害対策本部設置
- 05:59 ・車両火災出動 高司5丁目南部、栄町、宝松苑出張所 車両3台、13名
- 06:00 ・震災による西署第1号救急出動する。
- 06:02 ・家屋倒壊救出出動 今里町米谷出張所 車両1台、4名 救出4名
- 06:05 ・家屋倒壊救出出動 高司5丁目西署 車両2台、8名 救出2名
- 06:07 ・ガス漏れ広報 南ひばりガ丘3丁目地内雲雀丘出張所 車両1台、4名
- 06:27 ・緊急通報装置が作動し始める。市高年福祉課員の派遣を要請して対応する。
- 07:00 ・消防本部災害対策本部を通信事務室から防災対策室へ移設する。
 - ・発災からの救急出動8件



通信指令室

- ・07時00分までの消防職員の参集は、消防本部9名、西署36名、東署30名となった。
- ・ガス漏れ警戒出動 口谷西2丁目東署 車両1台、5名
- ・家屋倒壊危険警戒出動 口谷西2丁目地内東署 車両1台、5名
- 07:10 ・家屋倒壊救出出動 山本西2丁目中山台出張所 車両1台、3名 救出済み
- 07:50 ・家屋倒壊救出出動 仁川月見ガ丘

- 西署 車両1台、5名 救出6名
- 08:00 ・家屋倒壊救出出動 売布東の町
中山台出張所 車両1台、3名 救出4名
- ・08時00分までの消防職員の参集(累計)は、
消防本部18名、西署47名、東署41名の計106
名となり、18隊の編成が可能となった。
- ・発災からの救急出動(累計)は、12件
- 08:10 ・家屋倒壊救出出動 星の荘
米谷出張所 車両1台、7名 救出1名
- ・家屋倒壊救出出動 星の荘
米谷出張所 車両1台、3名 救出済み
- 08:15 ・家屋倒壊救出出動 売布東の町
米谷出張所 車両1台、5名 救出1名



- 08:30 ・家屋倒壊救出出動 高司5丁目
西署 車両1台、3名 救出1名
- 08:40 ・家屋倒壊救出出動 南ひばりガ丘1丁目
東署、雲雀丘 車両2台、9名 救出4
- ・ガス漏れ警戒出動 南ひばりガ丘1丁目周
辺
東署 車両1台、5名 調査、広報実施
- 08:45 ・家屋倒壊救出出動 高司3丁目
西署、宝松苑 車両3台、12名 救出1名
- 08:50 ・家屋倒壊救出出動 中筋4丁目
東署 雲雀丘、車両2台、8名 救出1名

- 08:52 ・停電復旧、通信指令装置の全てが作動した
が一斉指令回線は回復せず、出動指令は、
群指令個別指令で対応した。
- ・通信指令室は、停電復旧により1-M(指
揮車)から指令室へ無線の統制を移行し、
各出動車両から活動状況の収集を行った。
- 08:54 ・家屋倒壊救出出動 中筋4丁目
中山台出張所 車両1台、4名 救出1名
- 09:00 ・09時00分までの災害出動状況は、火災2件、
救急17件、救助18件、警戒4件で、119番受
信は約500件であった。
- ・09時00分までの消防職員の参集(累計)状
況は、本部24名、西署74名、東署60名の計
158名で23隊の編成で運用が可能となった。
- ・西谷地区被害調査の実施 1台、2名
- 09:21 ・家屋倒壊救出出動 栄町1丁目
栄町出張所 徒歩隊、3名 救出1名
- 09:30 ・家屋倒壊救出出動 星の荘
米谷出張所 車両1台、5名
- 09:31 ・家屋倒壊救出出動 川面3丁目
消防本部 車両1台、6名 救出2名
- 09:34 ・家屋倒壊救出出動 鹿塩1丁目
西署、宝松苑 車両3台、12名 救出1名





- 09:36 ・家屋倒壊救出出動 高司5丁目
米町、宝松苑 車両2台、8名 救出1名
- 09:40 ・家屋倒壊危険警戒出動 山本中2丁目
東署 1台、5名
- 09:50 ・家屋倒壊救出出動 星の荘
米谷出張所 徒歩隊、2名 救出1名
- 09:55 ・家屋倒壊救出出動 中山寺1丁目
東署 車両1台、救出1名
- 10:00 ・火気使用制限広報の実施
・10時00分までの消防職員の参集(累計)は、
本部28名、西署82名、東署62名の計172名に
なり、27隊の編成で運用が可能となった。



- ・管理隊は、参集人員が全体の80%になり予備車(非番小隊)にて出動可能な状況を確認、適切な出動指示が実施できた。

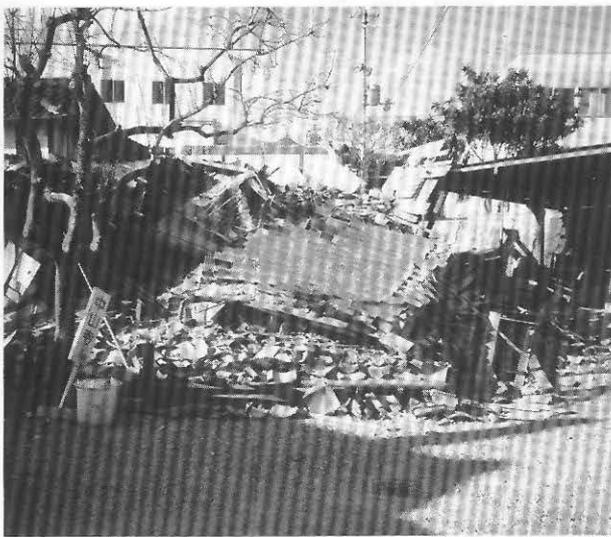
- ・10時00分までの救急出動(累計)26件

- 10:05 ・家屋倒壊救出出動 売布東の町
米谷出張所 車両1台、5名 救出なし
- 10:25 ・エレベーター内閉じ込め 伊予志4丁目
西署 車両1台、5名 救出1名
- 10:27 ・家屋倒壊救出出動 売布1丁目
米谷出張所 車両1台、5名 救出なし
- ・家屋倒壊救出出動 中山寺2丁目
東署、米谷 車両2台、9名 救出1名



- 10:30 ・家屋倒壊救出出動 西宮市田近野町
西署、宝松苑 車両2台、7名
- 10:40 ・家屋倒壊救出出動 星の荘
米谷出張所 車両1台、5名 救出なし
- 10:45 ・ガス漏れ警戒出動 小林4丁目地内
西署、1台、4名
大阪ガスに出動要請実施
- 10:48 ・家屋倒壊救出出動 谷口町
本部、西署、南部 車両4台、21名
救出2名
- 10:58 ・家屋倒壊救出出動 宮の町
米町出張所 車両1台 4名 救出済み

- 11:00 ・11時00分までの消防職員の参集(累計)は、本部31名、西署84名、東署64名の計179名となり、29隊の編成で運用が可能となった。
- ・ガス漏れの増加とその二次災害防止のため、本部員等が4班編成で市街地を4ブロックに分け、火気の使用制限の広報を実施した。
- ・11時00分までの救急出動(累計)34件
- ・家屋倒壊救出出動 山本中2丁目
東署、西署 車両3台、12名 救出2名



- 11:10 ・家屋倒壊救出出動 中筋3丁目
西署、中山台、雲雀丘 車両4台、17名 救出1名
- 11:18 ・芦屋市消防本部から応援要請を受け、米谷出張所1台、4名が出動した。
- 11:33 ・建物火災出動 南ひばりガ丘2丁目
東署、雲雀丘、消防団等 車両6台、24名
- 11:37 ・家屋倒壊救出出動 仁川北2丁目
東署 車両1台、5名
- 12:00 ・12時00分までの消防職員の参集(累計)は、本部31名、西署85名、東署69名の計185名となり、30隊の編成で運用が可能となった。
- ・12時00分までの災害出動状況は、火災3件、救急42件、救助38件、警戒14件、119番受信回数は約900件であった。

- 12:21 ・油流出警戒出動 小林4丁目
西署 車両1台、4名
- ・エレベーター閉じ込め救出出動
西署 車両1台、4名
すみれガ丘2丁目 業者により救出済み
- 12:50 ・室内閉じ込めによる救出出動 中野町
南部出張所 車両1台、4名 救出1名
- 13:00 ・この時間帯には、119番の受信回数は1時間当たり約60件に減少してきた。
- ・13時00分までの救急出動(累計)44件
- 13:21 ・建物火災出動 清荒神2丁目
西署、東署、消防団 車両12台、60名
- 13:31 ・家屋倒壊救出出動 川面1丁目
西署、南部 車両2台、12名 救出1名
- 14:00 ・清荒神2丁目の火災は、延焼中
- ・この時間帯には、消防本部災害対策本部及び通信指令室も業務に少しゆとりができ、次の災害に備えての準備ができた。
- ・14時00分までの救急出動(累計)45件
- 14:41 ・エレベーター閉じ込めによる救出出動
西署 車両1台、3名
南口2丁目 救出1名
- 14:30 ・雲雀丘出張所は、受け持ち区域の防火水槽の調査を開始した。被害は無し。



- 14:36 ・清荒神2丁目の火災が鎮火した。
- 15:00 ・家屋倒壊警戒出動 東署 1台、6名
・15時00分までの救急出動（累計）46件
- 15:40 ・災害対策本部の支援活動として、宝塚市民の避難者用食料調達のため、東署の消防車両1台が西宮市災害対策本部まで出向した。
- 15:50 ・家屋倒壊救出出動 仁川北2丁目
南部出張所 車両1台、5名 救出済み
- 16:00 ・川面1丁目の家屋倒壊による救出現場は、救出活動続行中
・民家のガスバルブの閉鎖、配電盤の遮断措置
米町出張所 徒歩部隊、2名
・16時00分までの救急出動（累計）50件
・宝松苑出張所は、受け持ち区域内の被害調査及び防火水槽の巡回点検を開始した。
- 16:26 ・ガス漏れ警戒出動 山本丸橋4丁目
東署 1台、4名
- 16:40 ・芦屋市精道町の火災に応援出動していた米谷出張所の車両は、火災現場から芦屋市消防本部へ帰署した。



- 17:00 ・この時間になって、ようやく通信指令室も指令業務が落ち着きをみせた。地震発生から17時00分までの災害出動状況は、次のとおり。

火災	4件
救急	51件
救助	44件
警戒	20件
119番受信	1,200件

- 17:20 ・ガス漏れ広報を実施 山本西2、3丁目
車両1台、2名
- 17:30 ・芦屋市応援の米谷出張所小隊は、芦屋市津和町の家屋倒壊救出出動する。
- 17:50 ・川面1丁目 家屋倒壊の生き埋め1名救出済み
- 18:19 ・家屋内閉じ込め救出出動 川面4丁目
米町1台、5名 玄関扉を破壊 1名救出
- 18:38 ・プロパンガス漏れ警戒出動 安倉中4丁目
宝松苑出張所 車両1台、5名
- 19:00 ・ガス漏れに伴う火気使用禁止広報実施
山本西、山本中地区 東署 1台 5名
- 19:05 ・ガス漏れ情報が相次いで数件119番受信
・溜め池の堤防決壊の恐れありとの災害対策本部からの連絡あり

- 19:06 ・溜め池堤防決壊の恐れあり。警戒出動
栄町出張所 1台、5名
- 19:20 ・ガス漏れに伴う火気使用禁止広報実施
南ひばりガ丘1、2丁目 東署 1台、2名
- 19:30 ・ガス漏れ警戒出動 御所の前町
西署 1台、5名
- 19:46 ・ガス漏れ警戒出動 栄町1丁目
栄町出張所 徒歩隊、2名
- 20:00 ・各署所の活動隊は全て引き揚げ、各署所で待機体制に入った。
- 21:00 ・21時00分までの災害出動は、次のとおり
 - 火災 …………… 4件
 - 救急 …………… 55件
 - 救助 …………… 45件
 - 警戒 …………… 25件
 - 119番受信 …………… 1,300件
- 21:17 ・家屋倒壊の恐れあり、警戒出動 宝梅3丁目
宝松苑出張所 車両1台、4名
- 21:31 ・家屋倒壊救出出動 逆瀬川2丁目
西署 車両1台、5名
- 22:21 ・溜め池堤防決壊の恐れあり。警戒出動
御殿山3丁目 栄町 車両1台、4名



- 22:45 ・芦屋市応援の米谷小隊は、家屋倒壊救出出動
- 23:20 ・家屋倒壊の恐れあり。警戒出動 売布ガ丘
東署 車両1台、2名
- 23:40 ・芦屋市応援の米谷小隊は、芦屋市消防本部を引き揚げ
- 23:45 ・日勤者(士長以下)、非番員、週休者への解散自宅待機命令下る。
- 24:00 ・地震発生から24時00分までの災害出動状況は、次のとおり

- 火災 …………… 4件(4件)
- 救急 …………… 64件(50件)
- 救助 …………… 46件(46件)
- 警戒 …………… 27件(27件)
- 119番受信 …………… 1,400件

※ ()内は、震災による件数を示す。



(3) 消防団の活動

地震発生14分後の06時00分に消防団長は、西谷分遣所に到着した。消防団の配置されている市北部の西谷地区は幸いにも大きな被害が発生しなかったが、市街地の大きな被害状況が判明したため、08時15分に有線放送で消防団員の招集を行った。

消防団員は、08時15分発令の非常招集により分団器具庫に参集し、消防団長の指揮のもと、1月17日18時40分までに火災出動(2件)、救助出動(9件)及び警戒出動(4件)、広報活動(1件)の災害活動のため、車両延べ13台、64名が出動した。

さらに、1月28日までに6日間にわたって市外応援活動に車両延べ21台、90名が出動した。また、市内避難場所への支援物品配布活動に延べ2台、10名が出動した。

ア 1.17 消防活動ドキュメント

- 06:00 ・消防団長が西谷分遣所に到着し、情報収集活動を開始
- 08:15 ・有線放送により、消防団員の招集を実施
- 09:05 ・先発隊として車両6台、団員36名が市街地へ出動した。到着後、消防団長の指揮により、常備消防と共に活動を実施した。
- 09:50 ・家屋倒壊救出出動 星の荘
上佐曾利、東部分団
 - ・家屋倒壊救出出動 川面3丁目
中部分団、救出2名
 - ・家屋倒壊救出出動 川面1丁目
境野分団
 - ・家屋倒壊救出出動 売布2丁目
波豆分団
- 10:07 ・家屋倒壊救出出動 中筋2丁目
西部分団
- 10:15 ・家屋倒壊救出出動 売布2丁目
波豆分団
- 10:26 ・家屋倒壊救出出動 中筋3丁目
西部分団 救出1名

- 10:40 ・次発隊が車両1台、団員6名で市街地へ出動した。
- 11:10 ・家屋倒壊救出出動 中筋3丁目
玉瀬分団 救出1名
- 11:15 ・家屋倒壊救出出動 市内 消防団本部隊
- 11:30 ・建物火災出動 南ひばりガ丘2丁目
中部、波豆分団
- 11:40 ・後発隊が車両3台、団員15名で出動した。
・西谷分遣所の非番職員を市街地まで搬送した。
- 12:01 ・火災応援出動 西宮市 上佐曾利分団
- 12:10 ・家屋倒壊救出出動 川面3丁目
中部、波豆、切畑分団
- 12:11 ・警戒出動 市内各所3件 武田尾分団
- 13:21 ・建物火災出動 清荒神2丁目
西部、中部、境野、玉瀬分団
- 15:05 ・消防団本部及び武田尾分団以外の分団は消防本部を引き揚げ、各分団器具庫で待機した。
- 16:51 ・落石の警戒出動 玉瀬字イズリハ
武田尾分団
- 17:46 ・広報活動 市内一円 消防団本部隊
- 18:40 ・消防団本部が消防本部を引き揚げ
- 20:00 ・招集された全分団が解散された。



イ 市外での活動状況

震災発生当日、12時01分に西宮市内で発生したガス管からの火災による消火活動に出動した。

その後、1月28日までの間に西宮市及び芦屋市への応援活動に対して、車両延べ21台、団員延べ90名が出動した。

1月17日

・12時01分
西宮市 消火活動 (車両1台、団員5名)

1月18日

・16時00分
芦屋市 救出活動 (車両3台、団員14名)

1月19日

・11時05分
芦屋市 救出活動 (車両7台 団員32名)

1月20日

・09時00分
芦屋市 救出活動 (車両4台 団員16名)

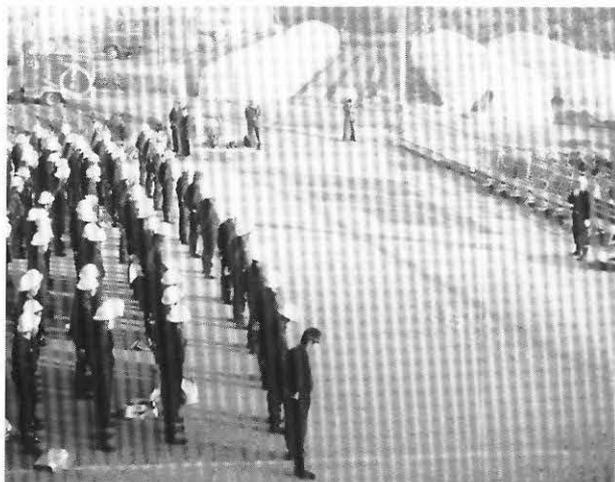
1月21日

・09時08分
芦屋市 救出活動 (車両3台 団員9名)

1月28日

・08時08分
芦屋市 生存者確認活動
(車両3台 団員14名)

消防団分団の配置状況



4 他都市への応援状況

1月17日、被害の大きい西宮市及び芦屋市の応援要請を受けたため、消防相互応援協定に基づき、10時30分にタンク車、ポンプ車、救急車、クレーン車各1台の応援出動を行った。

以後1月28日までに応援出動は、常備消防及び消防団を合わせて、車両延べ33台、人員延べ133名にのぼった。



市外応援活動

市別	隊別	17日		18日		19日		20日		21日		28日		計	
		車両	人員	車両	人員										
芦屋市	消防隊	1	4	1	4									2	8
	救急隊					1	3	1	3	1	3			3	9
	救助隊					1	4	1	4	1	4			3	12
	消防団			3	14	7	32	4	16	3	9	3	14	20	85
	小計	1	4	4	18	9	39	6	23	5	16	3	14	28	114
西宮市	消防隊	3	11											3	11
	救急隊	1	3											1	3
	消防団	1	5											1	5
	小計	5	19											5	19
合計		6	23	4	18	9	39	6	23	5	16	3	14	33	133

5 火災事例

〈西署管内〉

(1) 市内高司5丁目

アパート駐車場の車両火災

① 火災の概要

ア 発生時刻 平成7年1月17日 05時50分

イ 覚知種別 駆け込み通報

ウ 覚知時刻 05時59分

エ 放水開始 06時06分

オ 火勢鎮圧 06時09分

カ 鎮火 06時15分

キ 火災程度 車両1台全焼

類焼 廃材丸太約50本焼損

② 現場位置、付近の状況

ア 西消防署から南東へ約1700mの位置で、県

道西宮・宝塚線を挟み日本チバガイギー株式会社の西約100mに位置する。

イ この地域は、火災現場を中心として半径140m以内に公設消火栓4基などがあり、水利条件としては比較的良好的な地域で、消防活動上特に問題のない地域である。

③ 活動の詳細

出動車両は3台（タンク車1台、ポンプ車2台）である。

タンク車は公設消火栓50号に水利部署、ホース2本1線延長し建物西側から倒壊した家屋の下敷きになった車両及び廃材丸太の消火活動に当たった。

ポンプ車はタンク車からホース4本を使用し2線目を延長、火点南側から防ぎよに当たった。

倒壊建物写真（元の建物は3階建である。）



建物の下敷きで炎上した車の写真



(2) 市内清荒神2丁目 専用住宅建物火災

① 火災の概要

- ア 発生時刻 平成7年1月17日13時07分
- イ 覚知種別 119番通報
- ウ 覚知時刻 13時17分
- エ 放水開始 13時30分
- オ 火勢鎮圧 13時56分
- カ 鎮火 14時36分
- キ 火災程度 木造モルタル塗日本瓦葺き、平屋建て1棟延べ90㎡を全焼
類焼 木造モルタル塗日本瓦葺き、2階建て1棟延べ80㎡を全焼

② 現場位置、付近の状況

- ア 現場は、西消防署栄町出張所の東北東約1kmの地点であり、阪急清荒神駅の北約150m、八坂神社の東側に位置している。
- イ 水利状況は、現場を中心に半径140m以内には、公設消火栓6基、池1箇所があり水利事

情の悪い地域である。

更に、現場付近は道路狭隘で山の斜面に住宅が密集している。このため消防車の進入が困難で危険度の高い地域である。

ウ 現場付近の建物は、昭和30年代に建築された木造住宅が立ち並んでおり、1年を通じて清荒神参拝者が多く、特に参拝者が多くなる年末年始には特別警防計画をたて警戒している地域である。

③ 活動の詳細

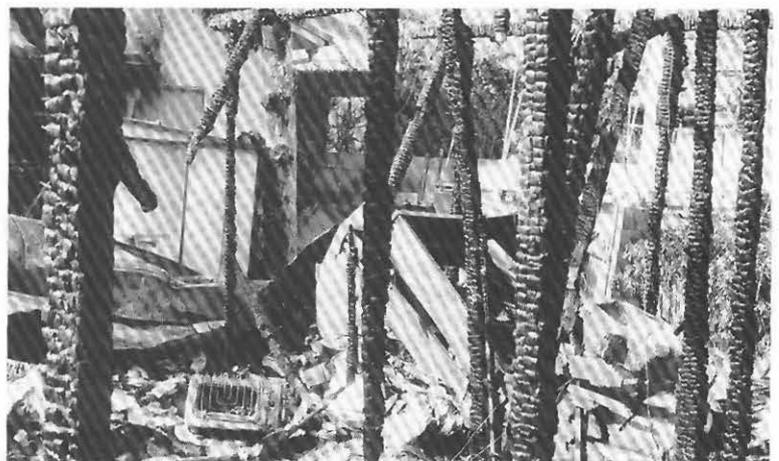
出動車両は、7台（タンク車1台、ポンプ車4台、化学車1台、広報車1台）である。

断水のため消火栓使用不能、水利は、清荒神アーバンライフ内の公設防火水槽、清荒神2丁目地内等の溜池に部署した。

道路狭隘地区であるので、水利部署位置から多量のホースを使用して中継体制で防ぎよに当たった。



建物東側の焼損



火点北側柱の焼損

〈東署管内〉

(1) 市内中山寺1丁目

店舗付きマンション建物火災

① 火災の概要

- ア 発生時刻 05時50分
- イ 覚知種別 駆け込み通報
- ウ 覚知時刻 05時58分
- エ 放水開始 06時03分
- オ 火勢鎮圧 06時30分
- カ 鎮火 06時40分
- キ 火災程度 3階の一室、北側洋室10㎡及び
2階事務所の収容物焼損

② 現場の状況

出火建物は、阪急中山駅の南約200m国道176号線の南側にあり、構造は鉄骨造地下1階、地

上6階、建築面積684.68㎡、延べ面積2239.93㎡で、平成2年8月に完成した比較的新しい建物である。

③ 活動の詳細

出動車両は1隊で高司5丁目の建物火災を無線で傍受し当方面に向かった。

出動途上、中筋1丁目付近でマンションが火災である旨の情報を得現場へ急行する。

現場はビルの1・2階が倒壊、3階から6階が北側国道に傾いていた。

3階と4階の東側部屋から炎が出ているのを見聞。消火栓が断水しているためタンク水にて3階部分を消火していたが水量不足のため、阪急中山駅南側防火水槽に部署しホース13本を延長し消火する。



火元洋室の焼損



倒壊店舗付きマンションから出火

(2) 市内南ひばりガ丘2丁目
共同住宅建物火災

① 火災の概要

- ア 発生時刻 11時27分
- イ 覚知種別 119番通報
- ウ 覚知時刻 11時33分
- エ 放水開始 なし
- カ 鎮火 11時36分
- キ 火災程度 1室占有面積43㎡の内、3㎡を
焼損したもの

② 出火建物の状況

該当建物は、鉄骨造カラーベスト葺、防火構造2階建て、建築面積182.18㎡、延べ面積364.36㎡の共同住宅である。

③ 活動の詳細

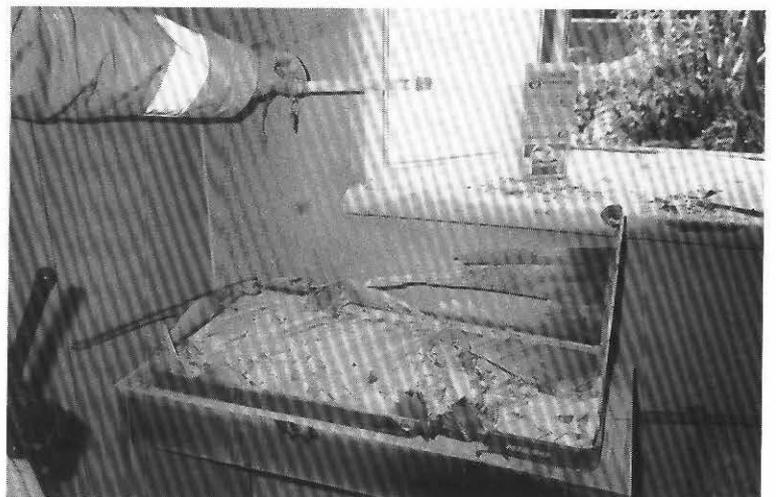
出動車両は4台（タンク車2台、ポンプ車2台）である。

共同住宅1階の1室、占有面積43㎡の居間より出火したが、内壁を3㎡焼損したのみで鎮火した建物火災であった。

このため調査活動のみ実施した。



出火箇所付近の焼損



水温調節用ヒーター及び水槽写真

6 倒壊建物状況

建物の被害状況を、全壊、半壊、一部損壊に区分し市民の申請内容によって市災害対策本部が決定した。

区分	被害の状況
全壊	被害が建物の50%以上のもの
半壊	// 20%以上で50%未満のもの
一部損壊	// 20%未満のもの

当決定に基づいて被災者証明書が発行された。

7 家屋調査の実施

市資産税課の協力要請によって、資産税額減額のための家屋調査を実施した。

(1) 調査期間

平成7年3月1日から5月末日まで

(2) 調査延べ人員

320名（うち消防職員40名）

区分 \ 月	3月	4月	5月	合計
財務	28	28	28	84
他部	14	6	6	26
消防	8	16	16	40
企業	54	58	58	170
合計	104	108	108	320



電柱も倒壊し大きな被害の出た民家

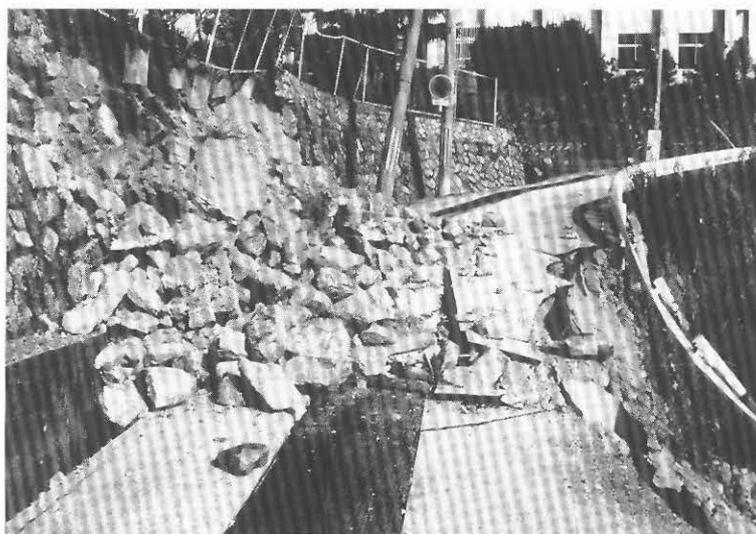
8 避難勧告

(発令された地域)

(1) 宝塚市逆瀬台6丁目

- ① 対象世帯 73世帯
- ② 対象期間 平成7年1月21日
11時から安全が確認されるまでの間
- ③ 避難場所 宝塚市立総合体育館

- ④ 避難勧告監視警戒
地滑り状況の監視……消防本部が担当
- ⑤ 監視時間割
ア 17時から22時まで
イ 22時から03時まで
ウ 03時から交代監視員が来るまで
以上の時間割にて2名の編成を組み巡回を実施
- ⑥ 解除 平成7年2月12日



紅葉ガ丘の市道被害

(2) 宝塚市紅葉ガ丘

- ① 対象世帯 87世帯
- ② 対象期間 平成7年1月22日15時30分から
- ③ 避難場所 宝塚市立第一小学校

- ④ 避難勧告監視警戒
消防機関にて逆瀬台6丁目の避難勧告地域と同じく監視巡回を実施。
- ⑤ 解除 平成7年2月23日

第 5 章

関係機関の対応

1 関係機関の震災関連対応

震災発生後、各関係機関は全力をふりしぼって不眠不休の態勢で都市の復興に努めた。

ここに、既に発表になっている関係機関の震災関連の対応をまとめた。

1 月

17日（火）

- ▽地震発生（05：46）
- ▽宝塚市災害対策本部設置（06：00）
- ▽スポーツセンターで救護所の開設（09：35）
（～2月10日）
- ▽兵庫県災害対策本部設置（07：00）
- ▽県知事自衛隊出動要請（10：00）
- ▽村山首相緊急記者会見（16：00）
- ▽国土庁長官県庁到着（18：15）
- ▽6市5町に災害救助法適用

18日（水）

- ▽自衛隊給水支援（～1月30日延べ104人出動）
- ▽全国から給水（車）応援（～2月3日）
- ▽非難者数最大1万5,945人記録

19日（木）

- ▽JR宝塚線全線開通
- ▽阪急宝塚線全線開通
- ▽首相被災地視察
- ▽自衛隊炊出支援
（～2月1日延べ80人出動）
- ▽財務部職員家屋被害調査（～22日まで）



21日（土）

- ▽市役所にボランティア本部設置（～2月28日）
- ▽避難勧告（逆瀬台6丁目・73世帯）

22日（日）

- ▽国の現地対策本部設置（～4月4日）
- ▽市長選挙告示。正司孝一郎氏無投票再選
- ▽避難勧告（紅葉ガ丘・87世帯）
- ▽市内ゴルフ場で風呂開放始まる
- ▽小学校で救援物資配付（～31日）



24日（火）

- ▽激甚災害地区指定

25日（水）

- ▽自衛隊ガレキ運搬
（～4月26日延べ2,380人出動）
- ▽建物応急危険度調査（～2月10日）

26日（木）

- ▽政府24年ぶりに防災基本計画大幅見直し決定
- ▽被災者証明書発行開始

27日（金）

- ▽中国自動車道全線開通
- ▽日赤の生活福祉資金特別貸付（～2月20日）
- ▽避難勧告一部解除（逆瀬台6丁目・9世帯）

29日（日）

- ▽市役所ホール横に特設浴場開場（～3月24日）

30日(月)

- ▽宝塚音楽学校再開
- ▽無料臨時法律相談(～3月31日)
- ▽放送ボランティア防災無線で避難所へ情報提供(～2月28日)
- ▽自治会へ災害関連情報配付(～2月14日)

31日(火)

- ▽天皇・皇后両陛下西宮市立中央体育館等で激励
- ▽家屋等公費解体受付(～2月20日)

2 月

1日(水)

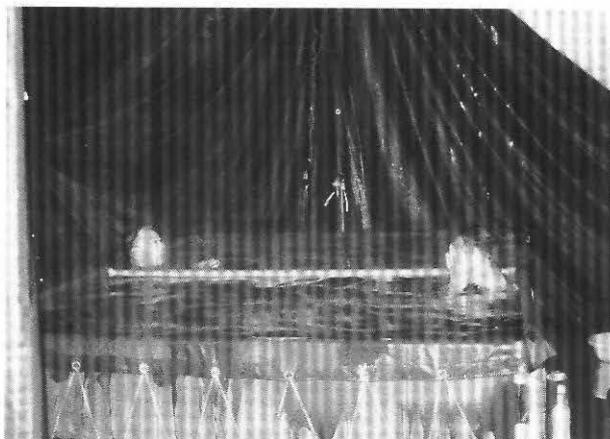
- ▽市震災復興本部設置
- ▽全国から被災証明業務に職員応援
- ▽避難勧告一部解除(紅葉ガ丘・16世帯44人)
- ▽上下水道料金1カ月減額発表

3日(金)

- ▽自衛隊武庫川河川敷に野営風呂設置(～3月18日延べ877人出動)

5日(日)

- ▽阪急今津線全線開通
- ▽県産業復興会議



6日(月)

- ▽日赤義援金支給開始
- ▽ソリオホールで衣料配布(～2月28日)
- ▽第1次仮設住宅入居開始

7日(火)

- ▽自衛隊家屋解体(～4月15日延べ6,134人出動)

8日(水)

- ▽震災復興基本方針決定

9日(木)

- ▽神戸市選管県に統一地方選挙延期要望
- ▽建築制限3地区指定

11日(土)

- ▽県都市再生戦略策定懇話会

12日(日)

- ▽避難勧告全面解除(逆瀬台6丁目・64世帯)

14日(火)

- ▽小林一三邸解体始まる
- ▽避難勧告一部解除(紅葉ガ丘・43世帯)

15日(水)

- ▽県臨時災害放送「FMフェニックス」開始
- ▽重点復興3地区再開発計画発表
- ▽「災害弔慰金・災害障害見舞金・災害援護金」支給
- 「災害援護資金・中小企業災害特別融資」貸付開始

16日(木)

- ▽県警運転免許交付事務再開
- ▽環境庁「野焼き」調査決定
- ▽重点復興地区(阪急売布神社駅前)地元説明会

17日（金）

- ▽宝塚朝鮮初級学校再開
- ▽重点復興地区（阪急仁川駅前）地元説明会

18日（土）

- ▽建設大臣・厚生大臣来宝
- ▽重点復興地区（花のみち周辺）地元説明会
- ▽建築制限1カ月延長

20日（月）

- ▽地震対策担当大臣来宝
- ▽所得税確定申告ソリオ2で始まる



22日（水）

- ▽被災者証明書窃盗犯逮捕

23日（木）

- ▽避難勧告全面解除（紅葉ガ丘・28世帯）
- ▽平成7年度当初予算（1,110億円余）
- ▽平成6年度補正予算（209億円余）
- ▽特別財政救助法案で特別被災地地方公共団体決定

24日（金）

- ▽企業に家屋現地調査応援要請
- ▽水道全戸仮復旧

25日（土）

- ▽逆瀬台・青葉台の地盤調査決定
- ▽生け垣助成金増額

26日（日）

- ▽西宮市、芦屋市で合同慰霊祭

3 月

1日（水）

- ▽税減免のため家屋現地調査開始

3日（金）

- ▽廃材の野焼き中止決定

5日（日）

- ▽国税庁確定申告期日延期を決定
- ▽市民会館で合同慰霊祭（皇太子ご夫妻〈総合体育館慰問〉地震対策担当大臣・衆議院議長弔問）



6日（月）

- ▽2次仮設住宅入居開始

8日（水）

- ▽市議会開会

9日(金)

▽北淡町「野島断層」永久保存発表

10日(土)

▽一部マンションの被災確認訂正と義援金回収決定

▽生活保護世帯等の住宅応急処理受付
(~3月17日)

11日(日)

▽宝塚市長都市再生
戦略策定懇話会で
復興シンボル「火
の鳥」提案



15日(木)

▽家財一時仮置場無償提供

16日(金)

▽市長等特別職の給料減額発表

25日(土)

▽ガス完全復旧

27日(月)

▽気象庁NTT宝塚営業所に震度計設置

28日(火)

▽災害弔慰金審査会設置決定

29日(水)

▽復興本部会議で復興促進区域8カ所を決定

31日(木)

▽震災復興計画検討委員会設置
▽宝塚大劇場再開

4 月

1日(土)

▽JR東海道線全線開通

▽ポイ捨て禁止条例施行(重点区域指定延期)・市
県民税申告期限・軽自動車税納付期限延長を公表

3日(月)

▽新雲雀出張所等開館

6日(木)

▽消防本部が仮設住宅に消火用水と消火器を設置



7日(金)

▽手塚記念館アトム画1万枚配布開始

10日(月)

▽市立看護専門学校第1回入学式
▽3次仮設住宅入居開始

21日(金)

▽県阪神間危険宅地緊急対策会議

23日(日)

▽市議会選挙

26日（水）

- ▽自衛隊撤収
- ▽国道176号線宝塚駅前区間4車線地下化開通



28日（金）

- ▽開発指導要綱一部緩和（震災から2年間）・生活道路整備要綱制定（5月1日適用）

29日（土）

- ▽消防本部仮設住宅で消防訓練



5 月

1日（月）

- ▽復興計画への市民意見募集
- ▽市議会議員総会

8日（月）

- ▽商店街等共同仮設店舗設置補助制度発表
- ▽避難所調査11カ所で開始

15日（月）

- ▽県南部大雨警報発令
- ▽義援金2次支給受付開始
- ▽水道局湧水対策本部解散

16日（火）

- ▽臨時市議会開会

18日（木）

- ▽国に宝塚・西宮・芦屋3市長復旧復興対策要望書提出
- ▽総合体育館で救援物資配布（～20日）
- ▽仮設住宅にエアコン市費設置発表

19日（金）

- ▽「阪神文化の灯を消すな」シンポジウム

20日（土）

- ▽仮設住宅入居者アンケート調査

21日（日）

- ▽避難所閉鎖（～27日残留者退出）

22日（月）

- ▽水害危険予想箇所指定（316件）

29日（月）

- ▽マンション等再建費用補助発表
- ▽花のみち再開発ビル設計を公募型プロポーザル方式で募集

31日（木）

- ▽サハリン震災に救援物資送る

6 月

5日(月)

- ▽宝塚市防災会議及び水防協議会開催
- ▽地域防災計画の一部見直し案可決される
- ▽水防計画の修正案可決される



11日(日)

- ▽県災害危険地図10万世帯配布発表
- ▽県議会選挙

12日(月)

- ▽阪急神戸線全線開通

13日(火)

- ▽市議会開会

14日(水)

- ▽小浜宿井川邸修復作業始まる

16日(金)

- ▽家屋等公費解体再受付
(~19日)

22日(木)

- ▽女性センター震災体験手記
「青いビニールシート」発刊

26日(月)

- ▽阪神本線全線開通

30日(金)

- ▽震災復興計画策定

7 月

11日(火)

- ▽上越市に集中豪雨見舞金送る

17日(月)

- ▽降雨による避難勧告基準決定

20日(木)

- ▽住宅復興3カ年計画発表

23日(日)

- ▽参議院議員選挙

27日(木)

- ▽国に阪神間6市長財政支援共同要望書提出

8 月

1日(火)

- ▽県阪神・淡路震災復興計画(総事業費17兆円)
最終発表
- ▽国際観光協会主催宝塚観光花火大会(~2日)

7日(月)

- ▽通産省地質調査所「有馬-高槻構造線」の位置・
活動歴本格調査開始

15日(火)

- ▽義援金(持家修繕・賃貸住宅入居助成)受付
(~平成10年3月31日)

21日（月）

▽青年会議所宝塚フェニックスまつり

22日（火）

▽国に阪神広域行政圏協議会震災復興要望書提出

24日（木）

▽大阪国際空港騒音対策協議会大阪空港の防災拠点化を求める決定

22日（金）

▽マンション居住者に所得税減免修正申告を求める

25日（月）

▽輸入木造3階建県営住宅（安倉南）建設決定

29日（金）

▽県地域こころのケアセンター開設

9 月

1日（金）

▽大震災復興基金被災者の融資制度等24事業の受付開始

3日（日）

▽市民会館で新能

4日（月）

▽補正予算案（震災関連130億、前年通算534億）発表

6日（水）

▽商工会復興旗・ステッカー製作
▽復興計画概算額（159事業・3,059億）公表

8日（金）

▽市議会開会

11日（月）

▽次年度県市民税等標準納期に変更公表

20日（水）

▽歴史資料保全情報ネットワーク半壊旧家から古文書救済

10 月

1日（日）

▽国勢調査
▽ゴミの細分別収集開始

2日（月）

▽災害援護資金・生活福祉資金貸付申込再開（～31日）



4日(水)

▽消防本部非常招集訓練

13日(金)

▽震災の廃材・ガレキ搬入受付終了

14日(土)

▽リサイクルフェア(～15日)

16日(月)

▽逆瀬台サービスセンター開館

20日(金)

▽NTT光ファイバーケーブルを被災地優先配備
発表

22日(日)

▽復興祭(たからづか楽市、消費者フェスティバル、宝塚朝市)

25日(木)

▽長田区菅原市場で「男はつらいよ」映画ロケ

26日(金)

▽宝塚女性フォーラム「女性と震災」(～28日)

30日(月)

▽首相諮問機関「阪神・淡路復興委員会」最終報告
▽災害復興賃貸住宅(約3,800戸)入居者募集
(～11月15日)



11 月

1日(水)

▽臨時市議会開会

4日(土)

▽宝塚(阪神)競馬場場外馬券販売再開

7日(火)

▽中筋八幡神社修復工事始まる

8日(水)

▽売布地区再開発事業概要発表
▽市都計審生産緑地再指定変更案承認

16日(木)

▽県緊急インフラ整備3カ年計画、ひょうご宅地
需給3カ年計画公表



2 大震災における職員の

行動調査集計結果

(1) 地震発生直後の行動

地震発生直後の行動は、職員が在宅中、当務中の何れかを問わず、大多数の者が発災によって目覚めるも、あまりの動揺の激しさに身動きが取れない状態となり、とりあえず布団を被るか、在宅中の者は傍らで就寝中の家族に覆い被さるといった程度の行動しか取れていないのが実情である。

(2) その後の行動

地震が治まった後、当務中の職員は通報により、即刻出動した者が殆どである。

在宅中の職員は、家族及び家屋内の安全を確認した後、近隣居住者の安否確認及び家屋の安全確認（ガス元栓閉栓、火気使用注意等）を付近住民と協力又は率先して実施しており、この辺りは消防職員としての職責がなせるものと評価されるものである。

中には激震により自宅が倒壊し、職員自身が家具等の下敷きとなり、生命の危険にさらされた者があるなど、職員自身が被災者となったケースも数多くあった。

なお、タンス、本棚等の家具の転倒が多く報告されているが、そのほとんどは転倒防止の措置を施していないものであったとみられ、我々防災を指導する立場にあるものにとっては、心すべき結果となった。

(3) 発災した時の感想

ほとんどの職員が、今までに体験したことのない動揺のために、居住していた建物が倒壊し、下敷きになるのではという恐怖を感じており、中には、被害の大きかった地域居住者で実際に家具の下敷きになり、生命の危険を実感した者もあった。

また、一部の職員にあつては、あまりの動揺の

大きさに、何が起こったのか理解できず狼狽してしまつたと応える者もあった。

揺れが治まった後、屋外に避難した者の多くは暗闇のために被害状況がはっきりと見聞きされず、物音もしなかつたため、その第一印象として、静寂を感じたと報告しているが、これがかえって不気味さとして捉えられている。

また、被害の少なかつた方面に居住していた職員も、参集途上、管内に近づくにつれて被害状況が悪化し、倒壊家屋を多く見聞きするなど、甚大な被害が生じており、未曾有の大災害の発生を実感している。

(4) 消防活動状況

発災後、各災害現場に出動した全ての職員がその職務に全力であつており、その活動状況から、当日は、各活動隊が市内の全域（中には、応援出動した他地域）において、ほぼ終日、消火、救急、救助・救出作業に従事したことが伺えるとともに、被災者及び近隣住民、現場に居合わせた一般市民の多くが要救助者の救出活動に積極的に協力した事が明らかになっており、大災害が発生した際の地域住民による自主的な活動が、災害排除の初動体制にいかにより重要であるかを物語っている。

特に、市内にある多くの造園、建築業者及び大規模造成工事中（サングリーン開発等）の土木業者が、手持ちの建設機械（掘削機械、起重機等の重機類）を多数災害現場に繰り出し、家屋倒壊場所等において救出活動に大きく寄与したことが各現場に出場した消防隊員から報告されており、他市の災害現場において、救出活動器材として上記の建設機械類が圧倒的に不足したことが報告されていることともあいまって、当市内における家屋倒壊現場での行方不明者の早期発見には、この民間業者の協力によるところ、非常に大なるものがあつたといえよう。

(5) 今回の震災活動に対し良かった点

今回の震災活動において幸いであった点は、まず何より一般市民、民間業者の協力が得られたことに尽きる。

これは、前述のとおり、現場に出場した隊員のほとんどが報告しているとおりであり、当市の地域性によるところ（造園業、建築・土木業の業者が多かったこと、大規模開発中の造成地があったこと）が大であるが、そのみならず、一般市民の自主的な災害防除活動が人命救出等に大きく関与したことが伺われる。

次には、自然条件となるが、地震発生が時間的に早朝（未明）であったこと、大規模な二次災害（地滑り等）が発生しなかったことが挙げられ、さらに、市民の注意及び消防の広報が功を奏したためか、火災発生が少なく、延焼拡大しなかったことが挙げられている。

さらにいえば、北部西谷地域における被害が少なかったことで、消防団が市街地の支援活動に回れたことも消防活動には救いとなった。

また、職員に対する評価としては、その多くが自宅の被害、家族の安否も十分確認できないまま、各災害現場において、有効な資器材も無く、人員も不足するなどの悪条件下、長時間にわたって、消火、救急、救助・救出等の現場活動に全力であたったことが挙げられており、これが被害の軽減につながったと推察される。

特に、当務中の職員は、家族や自宅の様子も分からないままに災害現場への出場を余儀なくされ、また、自宅にいた職員にあっても、被災した家族や自宅をそのままにして取り急ぎ参集し、その後終日にわたり災害現場活動にあたったことは、その心中たるやいかばかりのものがあつたかと推測される。

さらに、初期段階において通信手段が途絶し、駆け込み等の出場要請が殺到した中で、各部隊が的確な判断をなし、各職員が職務を自覚し、職務を全うしたことが各報告からも明らかになってお

り、これらも早期の災害鎮圧につながったものと評価されてよいであろう。

さらに、非常召集のあつた一部の職員を除き、ほとんどの職員が自主参集の形となったが、被害状況を考え、通勤手段に單車、自転車、徒歩を選択するなどして、概ね良好に参集できたのではないかと判断されるが、参集の際の交通手段及び非常召集方法を含め、今後十分検討を要する課題も残された。

次に、家屋倒壊現場などから、生き埋めとなった市民を多数生存救出でき、行方不明者が早期に発見されたことなども、市民協力によるところが大であるとの結果が出ている。

また、関係機関では、救急医療機関が積極的に、救急搬送した傷病者を受け入れてくれた点も挙げられている。

これは、各病院とも、近隣から震災による負傷者が多数つめかけ、病院自体がパニック状態となりながらも、積極的に傷病者を受け入れ、献身的に市民の救護にあたっており、普段からの消防機関との意志疎通もさることながら、医療機関自らがその使命による本来の責務を全うしたということであり、こと今回のような大災害時においては、実に心強い結果となっている。

しかしながら、災害の範囲があまりにも大きく、市民に数多くの犠牲者を出し、貴重な財産を多く失ってしまったことにより、消防の責務が果たせなかった自責の念から、良い点は何もないと答えた職員もかなりの数に上った。

(6) 反省

今回の震災に対する活動については、様々な反省、検討、指摘、要望が挙げられているが、その主なものは、下記のとおりである。

- ・「災害は発生する」という認識の不足
- ・組織全体の強化・充実
- ・地域防災計画・災害活動マニュアルの見直し
- ・災害に対する圧倒的な劣勢、無力感

- ・ 人員不足
- ・ 資器材の不足、欠如（建設重機、破壊器具、緊急自動車・搬送車等）
- ・ 初期段階における指揮系統の乱れ
- ・ 指揮本部の現場把握及びそれに基づく的確な指令の重要性
- ・ 現場に対する情報提供不足
- ・ 通信連絡方法途絶時の連絡方法の確立（有・無線、放送メディア等）
- ・ 交通手段、連絡手段途絶時の非常召・参集方法の確立
- ・ 非常食、飲料、燃料等の確保
- ・ 断水に対する対応（防火水槽増設、自然水利活用等）
- ・ 応急救護所の開設
- ・ 職員に対する配慮（心身両面にわたる疲労度の確認等）
- ・ 職員家族に対する配慮（家族、家屋の被害状況の確認等）

